

令和2年度 事業報告

理念：市民・当事者が主体の福祉のまちづくりを進めます

目標1) 多様なネットワークの力で市民のニーズを広く受け止め解決する体制づくり

目標2) 一人ひとりが生きる力を高めあい支えあえる地域コミュニティづくり

目標3) 新しい参加とつながりを生み出すしくみづくり

社会福祉法人

大津市社会福祉協議会

目 次

1. 総括	2
2. 会務の運営	3
(1) 理事会の開催	
(2) 評議員会の開催	
(3) 監事会の開催	
(4) 評議員選任・解任委員会の開催	
(5) 常任理事会の開催	
(6) 第三者委員会の開催	
(7) 賛助会費や寄付金等の自主財源の確保	
(8) 子育て応援フェアの実施	
(9) 市立大津市民病院応援プロジェクトの実施	
(10) 第5次地域福祉活動計画の推進	
(11) 経営指針に基づく「改革実行プラン」の推進	
(12) ワークライフバランス～生活と仕事の調和～の取り組み	
(13) 大津市社協における新型コロナウイルス感染症対策	
(14) 人事制度改革並びに目標管理制度の導入	
3. 活動の目標と具体的事業	10
目標1) 多様なネットワークの力で市民のニーズを広く受け止め解決する体制づくり	
1-1 情報を必要な人に届ける取り組みの充実	
1-2 市民が気軽に相談できる体制づくりとより積極的なニーズの把握	
1-3 相談を受け止め、対応する力の向上	
1-4 コーディネーション力の高い専門職の充実	
1-5 権利擁護支援の充実	
1-6 大津市における地域包括ケア体制の構築	
目標2) 一人ひとりが生きる力を高めあい支えあえる地域コミュニティづくり	45
2-1 福祉学習の推進	
2-2 生きる力を育む場づくり	
2-3 小地域における福祉のまちづくりの基盤強化	
2-4 災害時にも強い支援体制づくり	
目標3) 新しい参加とつながりを生み出すしくみづくり	65
3-1 ボランティアやNPO活動の推進	
3-2 新しい参加者を巻き込んでいく取り組みの推進	
3-3 地域で活動している人や団体の新しいつながりづくり	
3-4 地域福祉を協働で進める取り組みの推進	

令和2年度 社会福祉法人大津市社会福祉協議会 事業報告

1. 総括

本会では、『市民・当事者が主体の福祉のまちづくりの推進』の理念のもと、令和2年度の重点事業として「財務体質の改善と組織、人材育成のための改革」、「小地域における福祉のまちづくりの基盤強化」、「新しい参加とつながりを生み出すしくみづくり」、「災害時にも強い支援体制づくり」、「市民が気軽に相談できる体制づくりとより積極的なニーズの把握」、「権利擁護支援の充実」、「生きる力を育む場づくり」の7項目に取り組んだ。

また、本会の「経営指針」の2年目として、「財務体質の改善」「人材育成と組織の活性化」「新しい視点による事業の創設」「事務の効率化と経費削減」の4本柱に取り組んだ。

しかし、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大による4月と12月の2度にわたる緊急事態宣言は、令和2年度の本会のほとんどの事業に多大な影響を与えた。

本会では、国の新型コロナウイルス感染症に関する緊急対応策である緊急小口資金等の貸付事業の対応に組織を挙げて取り組んだ。また、4月には「新型コロナウイルス対策における各グループの事業継続計画（BCP）」を作成して、各事業の見直しを行った。

以下、コロナ禍の令和2年度の特徴的な事業項目を報告する。

(1) 「新型コロナウイルス対策における事業継続計画（BCP）について」

- ・4月の緊急事態宣言前に、各グループの事業継続計画を作成した。
- ・組織として止めることが出来ない総務事務や権利擁護事業は実施した。
- ・それ以外の事業は、休止し、職員総動員で重要事業である「特例貸付」を担当した。

(2) 「緊急小口資金等の特例貸付について」

- ・課、グループを超えて応援体制を取り、臨時職員、派遣職員を増員した。
- ・毎日の反省会、郵送方式、子育て応援フェアの開催、貸付報告を合計17回実施。
- ・令和元年度の貸付決定（57件）の約150倍にあたる8,519件の決定件数。

(3) 「コロナ禍における大津市社協ならではのプロジェクトについて」

- ・支援者の支援として「市民病院応援プロジェクト」（150万円の寄付）。
- ・自粛中のボランティアが活躍した「マスクプロジェクト」（2千枚を福祉施設に贈る）。
- ・食材の廃棄対策と困窮者支援を兼ねた「フードバンクプロジェクト」（約12トンの食材）。

(4) 「コロナ禍における地域福祉活動について」

- ・学区社協活動、ふれあいサロン活動等を行う際のコロナ対策の指針を提供した。
- ・ボランティアグループやふれあいサロンに対しアンケートを行い、コロナ禍の活動の工夫などを共有した。

(5) 「人事制度改革と目標管理制度、キャリアパスガイドブック、人材育成計画について」

- ・人事制度改革に取り組み、目標管理シートを作成し、試行的に実施した。
- ・各グループの職員の参画により、「キャリアパスガイドブック」を作成した。
- ・「人材育成計画」を作成し、「新任職員向けのOJTマニュアル」を作成した。

2. 会務の運営

(1) 理事会の開催

◆第1回理事会 令和2年5月27日(水) 決議の省略が同意され書面決議

- 第1号議案 令和元年度社会福祉法人大津市社会福祉協議会の事業報告および決算の承認について
- 第2号議案 社会福祉法人大津市社会福祉協議会理事候補者の選任について
- 第3号議案 社会福祉法人大津市社会福祉協議会評議員候補者の選任について
- 第4号議案 評議員選任・解任委員会の書面決議による開催について
- 第5号議案 定時評議員会の開催について
- 第6号議案 顧問の就任について

◆第2回理事会 令和2年8月21日(金) 決議の省略が同意され書面決議

- 第7号議案 社会福祉法人大津市社会福祉協議会理事候補者の選任について
- 第8号議案 社会福祉法人大津市社会福祉協議会評議員候補者の選任について
- 第9号議案 評議員会の書面決議による開催について
- 第10号議案 評議員選任・解任委員会の書面決議による開催について

◆第3回理事会 令和2年10月22日(木) 決議の省略が同意され書面決議

- 第11号議案 社会福祉法人大津市社会福祉協議会の常任理事の選任について

◆第4回理事会 令和3年3月17日(水) 9:50~12:07 (理事13名出席)

- 第12号議案 令和2年度大津市社会福祉協議会収支補正予算(案)について
- 第13号議案 人事制度改革に伴う関連規程の整備について
- 第14号議案 役員等賠償責任保険の契約締結について
- 第15号議案 令和3年度大津市社会福祉協議会事業計画(案)について
- 第16号議案 令和3年度大津市社会福祉協議会収支予算(案)について
- 第17号議案 大津市社会福祉協議会評議員選任・解任委員の選任について
- 第18号議案 第4回評議員会の開催について
- 第19号議案 大津市社会福祉協議会評議員候補者の選任について
- 第20号議案 評議員選任・解任委員会の書面決議による開催について
- 報告事項 1 労働基準監督署立入調査報告について
- 2 社会福祉法人指導監査報告について
- 3 新型コロナウイルス感染症特例貸付について
- 4 会長及び常務理事の職務の執行状況について

(2) 評議員会の開催

◆第1回評議員会 令和2年6月19日(金) 10:00~10:40 (評議員15名出席)

- 第1号議案 令和元年度社会福祉法人大津市社会福祉協議会事業報告及び決算の承認について
- 第2号議案 社会福祉法人大津市社会福祉協議会理事の選任について

◆第2回評議員会 令和2年9月4日(金) 決議の省略が同意され書面決議

- 第3号議案 社会福祉法人大津市社会福祉協議会理事の選任について

- ◆第3回評議員会 令和3年3月25日(木) 14:00~14:40 (評議員14名出席)
- 第4号議案 令和2年度大津市社会福祉協議会収支補正予算(案)について
- 第5号議案 令和3年度大津市社会福祉協議会事業計画(案)について
- 第6号議案 令和3年度大津市社会福祉協議会収支予算(案)について

(3) 監事会の開催

- ◆第1回監事会 令和2年5月14日(木) 9:30~ (監事2名出席)
- 令和2年度 社会福祉法人大津市社会福祉協議会事業報告について
- 令和2年度 社会福祉法人大津市社会福祉協議会収支決算報告について

(4) 評議員選任・解任委員会の開催

- ◆第1回評議員選任・解任委員会 令和2年6月22日(月) 決議の省略が同意され書面決議
- 第1号議案 社会福祉法人大津市社会福祉協議会評議員の選任について

- ◆第2回評議員選任・解任委員会 令和2年9月9日(水) 決議の省略が同意され書面決議
- 第2号議案 社会福祉法人大津市社会福祉協議会評議員の選任について

- ◆第3回評議員選任・解任委員会 令和2年9月9日(水) 決議の省略が同意され書面決議
- 第3号議案 社会福祉法人大津市社会福祉協議会評議員の選任について

(5) 常任理事会の開催 (理事会において、決議・報告する事項の事前審議を中心に開催)

- ◆第1回常任理事会 令和2年5月25日(月) 決議の省略が同意され書面決議

- ◆第2回常任理事会 令和2年8月11日(金) 決議の省略が同意され書面決議

- ◆第3回常任理事会 令和2年10月15日(木) 決議の省略が同意され書面決議

- ◆第4回常任理事会 令和3年3月12日(金) 決議の省略が同意され書面決議

(6) 第三者委員会の開催

令和3年2月3日、3名の第三者委員へヒアリハット案件の9件の報告を行った。

名前	資格	所属
田口 勝之	弁護士	京町法律事務所
並河 孝	社会福祉士	大津市社会福祉事業団
尾崎 史	社会福祉士	認定非営利法人 あさがお

- ・ヒアリハット案件 1. フォトコンクールの入賞作品が別の企画に応募していた件、2. 共同募金チラシを届ける際に一括ではなく別梱包にする件、3. 権利擁護事業の振り込み間違いの件、4. 生活福祉資金の説明不足による件、5. 特例貸付の説明の際の言葉遣いの件、6. 弁護士相談の際の情報不足の件、7. 青山学区社協のチラシを把握していなかった件、8. 歳末助け合い運動で額が決まっている件、9. 生活支援物資の教え間違いと謝罪不足の件

- ・全ての案件の振り返りと再発防止について検討し、第三者委員に報告し、アドバイスをいただいた。

(7) 賛助会費や寄付金等の自主財源の確保

学区社協を通じて、一般（戸別）及び特別（個人）会費にご協力をいただいた。また、継続的な財源を確保するためだけでなく、本会の活動を理解し、物心両面で支援をしていただく「賛助会員」の募集を行い、多くの方にご協力をいただいた。

種 別	件数	金 額 (円)
組織構成会費	159	318,000
賛助会費	120	1,131,000
寄附金	159	41,664,203

(8) 子育て応援フェアの実施

新型コロナウイルス感染症の影響で生活に困っている方に活用してほしいと地域の企業や市民から心温まる寄附金をいただき、令和2年12月9日・10日・12日の3日間と令和3年3月20日に「子育て応援フェア」を開催しました。

特例貸付を利用されている、ひとり親160世帯にご案内し、食品、生活用品の提供、文房具のとりかえっこ、よろず相談の各コーナーを開催し、第1回、第2回合わせて24世帯の参加がありました。また、第2回目は、日程の都合が合わず参加できない方へ郵送による支援物資の提供も行い、29世帯の方が希望されお届けしました。参加者から、コロナ禍で大変な時にたくさんの食品や日用品をいただき、とても助かりました。もっとこのプロジェクトが広がり、たくさんの方が救われる機会になれば良い。とりかえっこが楽しかった。参加者同士のネットワークができると良い。などの声をいただきました。



(9) 市立大津市民病院応援プロジェクトの実施

市民病院応援プロジェクトは、感染症指定医療機関として新型コロナウイルス感染症に対処している市立大津市民病院で、市民の命を守るため懸命に勤務されている医療従事者を支えたいという思いから大津市社協が事務局となってプロジェクトとして実施した。

プロジェクトを立ち上げた当初から、多くの市民や企業・団体のみなさまからご支援とご協力をいただくことができた。

1. 大津市民病院応援メッセージ

新型コロナウイルス感染症現場の最前線にいる市民病院の医療従事者（医師、看護師、薬剤師、医療技術者、事務職員等）を応援する“絵手紙”や“寄せ書き”によるメッセージを多くの方からいただき届けた。【合計 40 枚】



2. 医療物資の提供

防護服などの医療物資が不足していた際にポケットレインコート等の寄附を呼び掛けた。

レインコート	849 枚
N95 カップマスク	3,840 枚
防護具材料	500 枚
PP フィルム	4,000 枚
マスク	10,035 枚
こども用マスク	4,000 枚
不織布	50m×1 ロール



3. 運営資金の協力

令和2年6月から「電動ファン付き呼吸用保護具」を購入するための資金協力をお願いしたところ、大変多くの企業や団体、地域からご支援とご協力をいただいた。

令和2年10月9日（金）には明日都浜大津にて、協力資金の贈呈及び電動ファン付呼吸用保護具の披露会を実施した。

企業や地域の皆様からの共感、賛同を得て、目標を超える寄付金をお渡しすることができた。



(10) 第5次地域福祉活動計画の推進

第5次大津市社会福祉協議会地域福祉活動計画は、行政の地域福祉計画と一体的に策定したことで、大津市社会福祉審議会地域福祉専門分科会で大津市社協の活動について報告を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大により中止。

(11) 経営指針に基づく「改革実行プラン」の推進

大津市社協が持続的な活動を推進していくため、経営方針に基づき、令和2年度から4年度にかけて、4つの視点の内容を具現化するために「改革実行プラン」を推進した。

1) 財務体質の改善

- ①クレジットカードによる寄附金納入機能の追加
- ②市民病院応援プロジェクトの推進（贈呈、寄附） ページから財務基盤の強化
- ③個別支援の課題を整理し、伝える。寄付につながる。活動につなげる取組み。
 - ・ コロナ禍の生活困窮者の実態と課題のまとめと報告（合計 20 回）
 - ・ 子どもの貧困、お困りの方の様子を具体的に伝える
学区社協会長会議、地区民児協会長会議、施設連絡会、商工会議所等
 - ・ 事業所や商工会議所、元商店街、NPO、個人等の寄付（年間合計約 800 万円）
 - ・ プロジェクトとして、子育て支援フェア、生活支援物資購入等

2) 人材育成と組織の活性化

- ①人事制度の再構築（給与制度・評価制度の構築）
- ②目標管理制度の導入
- ③働き方改革に伴うワーク・ライフ・バランスの実現
- ④人材育成計画の策定（階層別研修体系） キャリアパス

3) 新しい視点による事業の創設

- ①広報「ひまわり」誌面の見直し ⇒ 社協活動を知ってもらう
- ②おおつひまりんグッズの作成、活用（啓発品・寄附に対する謝礼）
- ③おおつひまりん商標登録 弁理士に依頼
- ④おひとり様ずっと安心事業の実施（預託金サービス等）
- ⑤フードバンク活動支援事業

4) 事務の効率化と経費削減

- ①執務室の拡張検討（旧相談室の壁撤去）
- ②窓口業務時間の再構築及び電話交換機の更新（9：00～17：00）
- ③モバイルパソコンの導入（テレワーク対応）
- ④PacketiX VPN ネットワークの構築
 - ※PacketiX VPN を使用した簡単な VPN ネットワークの構築し、本会 LAN をローカルブリッジし、外出先（在宅）のノートパソコンから VPN を構築して本会 LAN にアクセスできるようなネットワークを構築する。
- ⑤Web会議システム「zoom」導入 ⇒ リモート会議の開催
専用ネットワークの敷設、Wi-Fi 環境整備、専用パソコンの設置（2 台）

(12) ワークライフバランス～生活と仕事の調和～の取り組み

大津労働基準監督署から立入調査を受け、時間外労働や衛生委員会の運営、産業医の面接指導について指摘を受けた。本会としても職員の過重労働に対する健康障害防止に向けて、「ワークライフバランス～生活と仕事の調和～」を掲げ、下記の取り組みを推進した。

- 1) 働き方改革推進監を設置して職員の健康管理・労務管理の徹底
- 2) 事業の進め方、事業の可否など業務改善の推進
- 3) 業務推進にかかる職員の意識改革

(13) 大津市社協における新型コロナウイルス感染症対策

大津市社協では、滋賀県や大津市の方針・指導に従い、新型コロナウイルス感染症に対し、来館者や地域福祉活動、職員等の感染予防策を実施した。

1) 感染予防対策

- ・大津市社協感染拡大防止対策マニュアルを作成し、滋賀県の「コロナとのつきあい方滋賀プラン」のステージに合わせた対応方法や行動について明記
- ・手指やカウンター等のアルコール消毒などによる対策
- ・カウンターにアクリル板等の設置
- ・会議室や執務室など換気の徹底
- ・執務室にエアロシールド（紫外線照射装置）の設置

2) 来館者

- ・咳エチケットや手洗い、アルコール消毒液での手指消毒など徹底
- ・マスクを装着
- ・会話は一定の距離を保ち、相談などはアクリルボード越しに行う
- ・相談・講座・会議などには、開始前に検温を実施し、発熱などの症状があった場合は、参加を控える
- ・特例貸付等の相談対応のためふれあいプラザの貸室を確保

3) 地域福祉活動

- ・地域福祉活動を社会や地域の情勢に合わせ、感染拡大防止に配慮しつつ運営・実践していくための対応マニュアルやチェックシート、新たな地域福祉活動の事例などを作成



(14) 人事制度改革並びに目標管理制度の導入

社会福祉法人制度改革に伴い、当法人では従来にも増して高い専門性をもった職員の確保と定着が求められている。そのためには、これまでの行政に準じた人事管理制度の採用を抜本的にあらため、法人の理念や各部署の目標に基づき、業務の達成度や期待される職務・役割、能力を評価し、能力開発や人材活用及び働き甲斐のある職場作りが課題である。そこで、これらの課題に対応していくため、キャリアパスを含む賃金・人事考課制度を構築した。

また、並行して目標管理制度を中心とした評価制度の構築と、階層別・部門別の人材育成計画の作成等を令和2年度内に行うことができ、人材育成や人件費の適正化につなげる端緒についたといえる。

今後、人事制度が法人内にて定着することで、定量化しにくい業務も含めた効率化や、人材の充実による住民サービスの質の向上が期待されるため、必要に応じた制度の見直しや、評価担当者の育成等を継続して行っていく。

<プロジェクト日程>

日程	内容
第0回：6月2日（火） 13時30分～16時30分	キックオフ：人事制度構築の目的とゴールの共有 階層の設定や、職務の整理についての説明
第1回：6月23日（火） 13時30分～16時30分	キャリアパスの検討 職能・役割基準書との整合性の確認
第2回：7月7日（火） 13時30分～16時30分	階層別に職責・職務遂行に必要な能力の検討 業務項目の整理
第3回：7月21日（火） 13時30分～16時30分	給与体系の検討：範囲級に関する説明 標準業務項目一覧の作成について

第4回 8月4日(火) 13時30分～16時30分	標準業務一覧に対する、業務遂行能力の整理 チーム別研修の検討
第5回 8月18日(火) 13時30分～16時30分	目標管理シートの様式の検討 求められる能力(階層別)の整理、検討
第6回 9月1日(火) 13時30分～16時30分	「キャリアパスガイドブック」の確認 評価シート(目標管理を含む)の検討
第7回 9月16日(水) 13時30分～16時30分	評価項目・基準の設計、評価表の検討 人事考課制度要綱の内容検討
第8回 9月29日(火) 13時30分～16時30分	人事考課制度要綱(案)の確認 「考課の手引き」「キャリアパスガイドブック」の修正
第9回 10月16日(金) 13時30分～16時30分	給与の検討(賃金上昇幅のピッチと昇給の調整等) 給与シミュレーション 評価制度の詳細検討
第10回 10月20日(火) 13時30分～16時30分	給与の検討(諸手当の整理・統合等) 給与シミュレーション 研修体系の構築
第11回 10月26日(月) 9時30分～16時30分	給与の検討(最終調整) 給与シミュレーション 研修体系の構築

<職員説明会・考課者研修>

日程	研修・説明会	内容
10月7日(水) ①13時～15時 ②15時15分～17時15分	キャリアパス・人事制度 職員説明会	キャリアパスの説系、制度の意義 とフローの確認
10月16日(金) 9時30分～12時	目標管理制度 考課者研修①	制度の理解と、考課者の 心構え
1月18日(月) 13時30分～16時30分	目標管理制度 考課者研修②	面談者研修 (思いを聴き、事実を訊く)
4月8日(水) 13時30分～16時30分	目標管理制度 考課者研修③ (3月19日より日程変更)	面談者研修 (フィードバック)

3. 活動の目標と具体的事業

本会は、第5次地域福祉活動計画において掲げた基本理念「一人ひとりを認めあい、支えあう、おおらかなまち“大津”」のもと、3つの目標に沿った活動を展開した。

目標1) 多様なネットワークの力で市民のニーズを広く受け止め解決する体制づくり

(1) 情報を必要な人に届ける取り組みの充実

① 本当に必要な人の手元まで福祉情報を届ける工夫をします		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
普段、福祉情報にふれることがない人でも、困った時や心配ごとが生じた際に、容易に目的の情報や相談窓口につながるよう、ホームページやSNS、広報紙等による情報提供を行います。	市社協キャラクター「おおつ ひまりん」の積極的な活用と広報紙紙面の表題や文字を大きくするなど工夫をしたほか、市民にアンケートも取り感想を参考にして、さらに工夫することができた。ホームページにおいては、広報からQRコード通じてホームページに案内することで、さらに情報提供することができた。	誰もが大津市社協を知ってもらうことで、市民自身がアンテナ役になり、困ったときは大津市社協へをより広く周知する。

主な事業

・大津っ子まつり推進事業

例年5月に皇子が丘公園で開催される大津っ子まつりに参加し、子どもたちを対象にした体験を通して本会の周知や民生委員児童委員、ファミリーサポートセンターの啓発活動、ボランティア団体による手作り品の販売を実施しているが、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大状況を考慮し、開催が中止となった。

・キャラクター活用事業

「おおつ ひまりん」の活用

- ・ひまりんグッズ（クリアファイル4種、エコバッグ）の作成



・広報啓発事業（広報紙ひまわりの発行、ホームページの充実、社協ムービーの活用）

- 1) おおつ社協ニュースひまわり 160号（9/15）、161号（12/15）、162号（4/1）回覧
- 2) ホームページの充実

本会のホームページについて、最新情報の更新に積極的に取り組んだ。

- 3) 社協PR動画の更新とYouTubeの作成

社協活動を可視化できるように、作成している動画を更新した。また、コロナ禍の特例貸付や市民病院応援プロジェクト、CSWの取り組みについて取材を受け、YouTubeで活動の発信に協力した。

・絵手紙カレンダーの作成と配布

ふれあいフォトコンクールの終了により、ふれあいフォトカレンダーに代わる新たなカレンダーとして、絵手紙カレンダーを作成した。例年の歳末たすけあい運動での活用だけでなく、市民への社協PRとしても活用した。



・ SNS を利用した広報活動

Facebook を活用した、広報活動を積極的に実施した。(投稿 45 回)

(2) 市民が気軽に相談できる体制づくりとより積極的なニーズの把握

① 地域に出向き課題の掘り起こし（アウトリーチと地域アセスメント）に努めます		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
コミュニティソーシャルワーカーや生活支援コーディネーター等が支援につながりにくいさまざまな生活課題を受け止めるとともに、アウトリーチによる地域のニーズ把握に努めます。	おひとり様ずつと安心モデル事業において、訪問によりエンディングノートを用いて聞き取り、生活課題を把握した。また、対象者を通じて地域の病院や診療所、居宅介護支援事業所、地域住民から地域ニーズの聞き取りを行った。	グループ間連携を通じて、社会的孤立の脱却と防止に向けニーズ把握し支援できる体制づくりに取り組む。

② 相談機関、関係機関との連携の強化を図ります		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
初期相談からスムーズに支援へつながるよう、担当職員同士の情報共有をきめ細かく行うとともに、相談機関や関係機関の連携強化を図ります。	総合ふれあい相談についてはコロナ禍により相談の自粛をせざるを得ない時期があった。各相談員には相談所ごとに説明会を開催するなど工夫することができた。相談機関連絡会では新たにオンライン会議を導入したことで相談機関のつながりについて分野を越えたつながりを維持することができた。	相談機関連絡会をオンラインと集合型のハイブリッドで開催することで、分野を越えた連携強化を図る。

主な事業

・ 生活困窮者自立支援制度にかかる事業

1) 事業の目的

生活困窮者が困窮状態から早期に脱却することを支援するため、本人の状態に応じた包括かつ継続的な相談支援等を実施するとともに、地域における自立・就労支援等の体制を構築することを目的としている。

2) 実施主体

大津市（大津市より受託）

3) 事業の概要

① 自立相談支援事業【必須事業】

→ 生活困窮者の課題の把握、支援計画踏まえた包括的な支援、ひきこもり者の理解や支援の拡充を図ること目指し、地域のネットワークづくり等を実施した。

② 子どもの学習・生活支援事業【任意事業】

→ 夏休み等の子どもたちの学習機会の提供及び居場所づくり「寺子屋プロジェクト」を実施した。(16 学区)

夕方から夜の子どもの居場所づくり「トワイライトステイ」を実施した。コロナ禍における緊急子ども支援として一部週 5 日の開催。

4) 事業実績

① 自立相談支援事業（必須事業）

ア) 初期対応状況 (件)

年度	新規相談 受付者数	内訳		
		継続支援し、 プラン策定	情報提供・ 相談のみ	他制度・他機関 等へのつなぎ
平成 30 年度	421	126	96	206
令和元年度	541	153	140	266
令和 2 年度	2900	242	81	2661

新型コロナウイルス感染症の影響で生活に困窮した方が激増したため、新規相談受付件数は、前年度比 5.4 倍となった。他制度・他機関等へのつなぎ 2661 件の 9 割は、新型コロナウイルス感染症に伴う特例貸付（緊急小口資金・総合支援資金）の相談である。

イ) 相談内容・困りごと ※複数選択あり (件)

生活費の収入	仕事探し・ 就職について	税金・公共料金の 支払い	家賃・ローンの 支払い	病気・健康 障害のこと	住まいのこと	債務について	食べるもの がない	家族との関係	仕事の不安 トラブル	子育て	介護のこと	ひきこもり 不登校	D V 虐待	地域との関係	その他
2250	220	167	144	101	87	51	37	32	27	20	19	6	5	4	437

※その他は、主に特例貸付に関する相談

ウ) 新規相談受付のうちプラン作成による月別支援状況 (件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間 合計
新規相談受付件数(本人未特定を含む)		748	45	33	64	276	402	177	264	195	137	180	379	2,900
(うち)本人特定のみ(本人同意なしを含む)		748	45	33	64	276	402	177	264	195	137	180	379	2,900
(うち)本人特定のみ(本人同意ありのみ)		62	26	24	48	182	34	109	114	113	95	148	261	1,216
プラン策定前支援終了件数(初回スクリーニング時)		732	35	20	50	255	387	162	252	185	133	173	358	2,742
うち	情報提供のみで終了	22	10	8	6	2	4	3	5	4	4	5	8	81
	他機関へのつなぎで終了	710	25	12	44	253	383	159	247	181	129	168	350	2,661
	スクリーニング判断前に中断・終了	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
支援決定・確認件数(再プランを含む)		17	11	21	21	25	21	28	17	19	25	18	19	242
うち	支援決定あり	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	0	1	5
就労支援対象者数(プラン期間中の一般就労を目標としている)		13	10	18	18	21	20	25	17	18	24	17	17	218
事業に 等基 づく	住居確保給付金	4	4	8	4	9	5	7	5	6	6	7	5	70
	一時生活支援事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	家計改善支援事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	就労準備支援事業	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	0	1	5
	認定就労訓練事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自立相談支援事業による就労支援		13	10	18	18	21	20	25	17	18	24	17	16	217
その他	生活福祉資金による貸付	10	5	15	13	18	18	25	12	15	17	15	13	176
	生活保護受給者等就労自立促進事業	11	10	17	18	20	20	25	16	17	21	17	16	208

※プラン内容は、プランの段階での利用予定であり、実際利用された件数とは異なる場合がある。

エ) 評価結果の状況

今年度、評価を実施した 222 人のうち変化が見られたのは、209 人で、評価実施件数中、就労支援対象者プラン作成者は、173 人で、うち 112 人は一般就労を開始、1 人は就労収入が増加した。

支援により見られた変化では、就労開始による増収や税金や保険料、各種公共料金の滞納を返還、消費者金融等からの負債の清算による家計の改善が多く見られた。

(件)

評価実施件数(再プランを含む)	7	4	21	13	10	13	16	5	35	48	25	25	222	
評価結果	最終	4	2	15	9	5	12	14	5	31	37	20	21	175
	再プランして継続	3	2	6	4	5	1	2	0	4	11	5	4	47
	中断	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
見られた変化	変化あり	7	4	21	13	10	12	16	5	32	45	22	22	209
	変化なし	0	0	0	0	0	1	0	0	3	3	3	3	13
①評価実施件数中就業支援対象プラン作成者分	3	4	11	8	5	12	12	5	29	38	24	22	173	
うち 一般就業開始	1	3	5	4	4	8	9	4	24	27	12	11	112	
うち 就業収入が増加	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
②評価実施件数中、就業支援非対象プラン作成者分	4	0	10	5	5	1	4	0	6	9	1	3	48	
うち 一般就業開始	1	0	2	0	1	1	1	0	0	2	0	0	8	
うち 就業収入が増加	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
③プラン作成者以外														
うち 一般就業開始	1	0	1	2	2	3	0	1	0	0	0	0	10	
うち 就業収入が増加	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

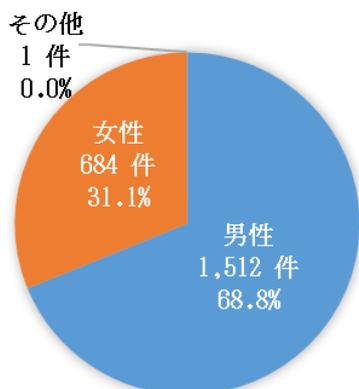
オ) 相談経路

(件)

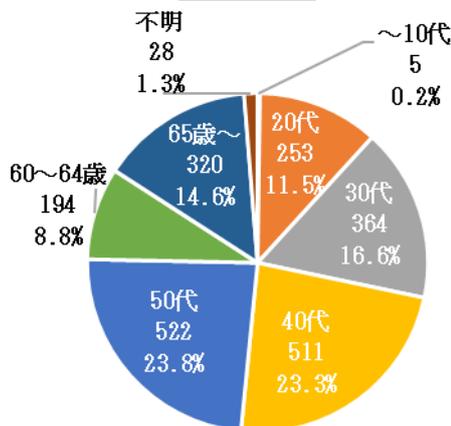
生活保護担当課	23	49	7	4	20	2	50	1868	30	4	2	1	8	3	8	1	46	5	5	34	27	2197	
収納関係課																							
子ども家庭課・子ども家庭相談室																							
保健所・精神保健福祉センター																							
市(総合案内、市民相談室)・支所																							
その他行政機関																							
相談履歴あり																							
インターネット・HP・チラシ・看板																							
市社協(他部署)ふれあい相談 子ども若者総合相談																							
県社協・他市社協																							
弁護士・司法書士・法テラス																							
学校関係者																							
あんしん長寿・すこやか相談所																							
ケアマネ・介護事業所																							
医療機関(訪問看護含む)																							
居住支援法人・不動産関係																							
家族・知人・職場・近隣住民																							
民生委員																							
ハローワーク																							
不明																							
その他																							
合計																							

1868件のほとんどは、新型コロナウイルス関連の特例貸付相談であった。

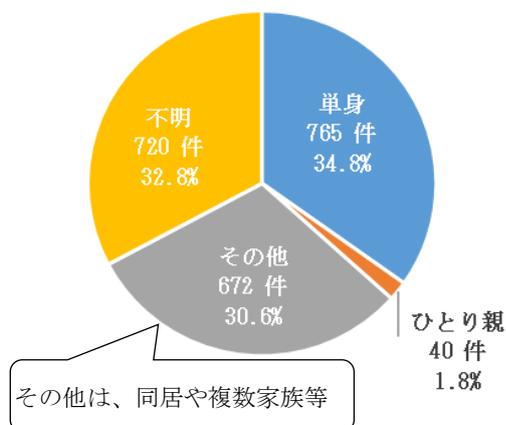
男女別/人



年代別/人



世帯別/人



今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で収入が減少・休業、失業した方へ電話等によるアプローチを行い、就業支援を実施した。感染防止の観点から面談時間も制限されることから、電話やメール、手紙などのツールを活用し、相談者との信頼関係の構築を図った。

下記は、大津市社協が、独自に今年度の就労対象者（前年度からの継続者含む）と就労者・増収者を集計したものである。特例貸付の相談者の約 20%が無職・失業されている状況で、年齢別では 40 代、50 代で 50%、世帯別では、ひとり親や単身世帯で 45%を占めており、離職期間が長期化すると、たちまち生活困窮に陥る状況であることから、アプローチやフォロー支援を丁寧に実施した。

(件)

就労支援対象者	就労者数 (プラン有)	増収者数 (プラン有)	就労者数 (プラン無)	就労者数 (未評価)	就職・増収者数累計	就労支援ステーション利用者数	就労・増収者率
259 (42)	131	1	10	1	143	178	55.2%

(自立相談支援における就労支援状況) ※就労支援対象者の () は、前年度からの継続者
今年度の就労支援対象者 259 人のうち就労支援ステーション「ステップアップおおつ」を利用された方は、178 人 (68.7%) であり、就労支援ナビゲーターと連携しながら、早期、再就職に向けて就労支援や生活支援を実施した。

キ) ふわりサロンの開催

「日常生活自立」「社会生活自立」そして、「孤立からの脱却」を目指して、ゆるやかな居場所として当事者サロンを定例会として毎月 1 回 (R2 年度 8 回) 実施した。

- ・新型コロナウイルス感染拡大に伴い 3 回開催中止となった (うちステップアップ勉強会 2 回)
- ・定例会以外の活動については新型コロナウイルスの影響で見合わせた。
- ・参加人数延べ: 69 名

実施日		内容		会場	時間	人数
4月8日	水	定例	・大津市歴史博物館への社会見学 (大河ドラマ「麒麟がくる」⇒「明智光秀と戦国時代の天津」)	大津歴史博物館	※新型コロナウイルスの影響のため開催中止	
5月13日	水	定例	・第1回ステップアップ勉強会 「生活設計・マネープランゲーム」 で家計を学ぼう!	中会議室	※新型コロナウイルスの影響のため開催中止	
6月10日	水	定例	・第2回ステップアップ勉強会 「コミュニケーション力を身につけよう!」 講師; キャリアコンサルタント 長崎 俊昭氏	大会議室	10:00~12:00	5名
7月8日	水	定例	・北消防署への施設見学	北消防署	※新型コロナウイルスの影響のため開催中止	
8月12日	水	定例	・共同募金資材準備作業(お仕事体験)	中会議室	10:00~12:00	15名
9月9日	水	定例	・外来魚駆除	琵琶湖湖岸	10:00~12:00	10名
10月14日	水	定例	・北消防署への施設見学	北消防署	10:00~12:00	7名
11月11日	水	定例	・散策ボランティア 「近江神宮でどんぐり拾い~奈良公園の鹿にどんぐりを寄付~」	近江神宮	10:00~12:00	9名
12月9日	水	定例	・ふわりメンバーに年賀状を出そう! 「芋版作り」	大会議室	10:00~12:00	8名
1月13日	水	定例	・初詣&おぜんざいの食事会	近江神宮	※新型コロナウイルスの影響のため開催中止	
2月10日	水	定例	・第3回ステップアップ勉強(就職氷河期一体的モデル事業企画) 「就職に向けた準備~挨拶や身だし	ホール	10:00~12:00	8名

			なみの実践編～ 講師：滋賀県地域若者サポートステーション(大津常設サテライト)			
3月10日	水	定例	・施設連絡会とコラボ企画 「卒園おめでとう！」手作りメダルで卒園のお祝い	中会議室	10:00～12:00	7名

<ステップアップ勉強会>



コミュニケーション力を身につける練習

次のステップへ!

就職に向けた準備

<外出レクリエーション>



北消防署への見学の様子

どんぐりを拾って奈良県の鹿へ贈呈しました

ク) 傍楽(はたらく)体験への参加

滋賀県社会福祉協議会が実施している「ひきこもり者と家族が孤立しない地域支援体制づくり事業」において傍楽(はたらく)体験が開催されている。働きづらさを抱えている方のサポートを目的として月に1回2時間の作業が用意されている。(参加人数延べ: 39名)

実施日		内容		時間	人数
4月21日	火	定例	・寄付物品仕分け作業	10:00～12:00	2名
5月26日	火	定例	・文書整理 15箱 ・寄付物品運び(鯖缶 150セット) ・大封筒作り"	10:00～12:00	2名
6月26日	金	定例	・寄付物品整理 ・仕分け作業 46箱 ・募金箱板入れ作業 約500個	10:00～12:00	3名
7月29日	水	定例	・車椅子のタイヤの空気入れ ・福祉用具等の清掃作業 75品 ・クリアポケットのカット作業 1560枚	10:00～12:00	6名
8月28日	金	定例	・車いす清掃 ・タイヤ空気入れ、消毒作業 40台 ・コロナ特例貸付に使用するレターパックのラベル貼り作業 600枚	10:00～12:00	4名
9月28日	月	定例	・介護用品設置場所の清掃 ・県社協発送作業ラベル張り	10:00～12:00	4名

10月12日	月	定例	・福祉研修センター発送作業 (ラベル張り・書類封入) 895通 ・リサイクル封筒作り 49通	10:00~12:00	5名
11月16日	月	定例	・ホッチキスどめ作業 500セット ・資料封入作業 200セット ・子ども食堂フェスタ飾り作り 7個	10:00~12:00	2名
12月22日	火	定例	・車いす整備作業(空気入れ、消毒) ・福祉用具、棚の消毒 ・県社協発送作業ラベル張り	10:00~12:00	4名
1月19日	火	定例	・車いすを運ぶ、空気入れ ・車いす体験	10:00~12:00	1名
2月24日	水	定例	・福祉用具等清掃作業 ・アンケート入力作業	10:00~12:00	1名
3月23日	火	定例	・パソコンアンケート入力 ・封筒ラベル張り	10:00~12:00	1名

・総合ふれあい相談事業

市内7か所の総合ふれあい相談について、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、滋賀県独自の警戒レベルを基準にし、「警戒ステージ」の期間は開催を中止としたため、令和2年度開催期間は10月~12月の3か月となった。

令和2年度から相談件数の減少と開催頻度を月2回から月1回で実施。さらに旅費についても見直しを行い、ふれあい相談員を担う民生委員児童委員全員に一定額(500円)を支払い、公共交通機関を使って出務する方と自家用車またはバイクで往復10kmを超える方について別途実費分(自家用車、バイクについては20円/km)を支払うこととした。

令和2年度のふれあい相談員を対象とした研修会は、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、総合ふれあい相談員説明会という形で、市内7か所の相談所ごとに実施した。相談所ごとに説明会を行ったことで少人数(10名程度)、60分以内という短時間で行うことができたことは感染予防対策として効果があった。また参加者からも質問や意見がしやすい雰囲気であったこと、相談所を使って行うことで、相談のイメージがしやすいことも良い効果であった。

市社協で実施している総合ふれあい相談は、警戒ステージの期間中は面談を中止、延期対応を行い、電話相談は通常通り実施した。

- 1) 相談体制 常設相談(市社協内) 相談員1名(相談員3名が交代で対応)
市内7か所ふれあい相談所 相談員2名(相談員70名が交代で対応)

2) 相談状況 (件)

ふれあい相談		4月		5月		6月		7月		8月		9月	
相談件数		51		63		88		83		75		67	
		新規	継続										
		16	35	21	42	35	53	23	60	26	49	23	44
相談内訳	電話	45		59		70		69		58		53	
	来所	6		3		12		12		14		11	
	訪問	0		1		0		0		1		0	
	その他	0		0		6		2		2		3	
	木戸												
	堅田												
	坂本												
	逢坂												
	晴嵐												
	南郷												
瀬田													

ふれあい相談		10月		11月		12月		1月		2月		3月		年度合計	
相談件数		96		71		61		55		49		91		850 (887)	
		新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続
		39	57	23	48	22	39	18	37	18	31	39	52	303	547
相談内訳	電話	60		59		40		41		36		72		513 (665)	
	来所	25		8		15		9		8		12		106 (141)	
	訪問	3		3		4		1		1		0		12 (30)	
	その他	4		1		2		4		4		7		20 (20)	
	木戸	0		0		0								0 (3)	
	堅田	0		0		0								0 (10)	
	坂本	1		0		0								1 (5)	
	逢坂	0		0		0								0 (1)	
	晴嵐	0		0		0								0 (3)	
	南郷	0		0		0								0 (3)	
	瀬田	3		0		0								3 (6)	

() 内は、令和元年度件数

・相談機関連絡会の開催

昨年度まで2カ月に1回のペースで、顔の見える関係づくりを目的に情報交換を実施していた「相談機関連絡会」について、今年度は中止していたがオンライン環境が各相談機関に広がったことから、初めてオンラインで開催した。今回は「コロナ禍における変化」というテーマで情報交換を実施した。

【開催日】 令和3年3月4日(木) 13:30~15:00

【参加機関】 9機関、10名の参加

滋賀県地域若者サポートステーション	精神保健福祉センター
大津市権利擁護サポートセンター	日本司法支援センター滋賀地方事務所(法テラス滋賀)
大津市消費生活センター	若鮎の家
琵琶湖病院	大津市社会福祉協議会
大津市保護観察所	

【課題・今後の方向性】

相談機関連絡会は、障害や権利、医療、司法の関係が集まっており、広い領域で知識を共有することができる機会になっている。相談機関連絡会は登録機関が70機関ほどある。「当日参加するまで、どんな話になるのかわからない。」といった声があり、事前にテーマを決めて、相談機関連絡会の案内をすることで参加者も参加しやすいという意見もあった。

来年度相談機関連絡会で取り入れたいトークテーマの一つに「2022年成年年齢の引き下げ(20歳→18歳)について」という話も上がった。

来年度はオンライン開催で、開催頻度も3か月に1回程度、テーマを決めて開催案内という方向で進めていきたい。

・市福祉政策課への職員派遣

大津市の福祉政策課へ社会福祉士を1名派遣した。

生活困窮者自立支援事業等を担当。

庁内における生活困窮者支援のための「支援会議」の創設と事例の積み重ね重層型支援体制整備事業の県内、中核市の進捗状況の調査等。

・生活福祉資金貸付事業、法外援護及び扶助事業

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、令和2年3月25日から特例貸付が開始となった。受付期間は当初、令和2年7月末までだったが、コロナ禍の長期化や緊急事態宣言等による生活困窮に陥った方の支援策として、幾度と延長となり、現時点で令和3年6月末までとなった。コロナによって収入が減少や失業した方の相談が激増し、本年度に貸付が決定した件数は、前年度比で約150倍となった。それに合わせて、子どもの進学費用、家賃の滞納、ライフラインの停止、食べるものが無いといった相談もあった。進学費用には教育支援資金の対応や特例貸付が決定するまでの間の緊急的な支援として法外援護費で対応を行った。

また、本会では特例貸付を利用しているひとり親世帯を対象に、「子育て応援フェア」を開催。貸付で終わることなく、市社協が相談できる場所という周知に加えて、相談者が助けられる側から助ける側となるよう取り組んだ。具体的には地域からいただいた生活支援物資の提供、子どもの進学に伴う学費相談、使えるものを再利用するとりかえっこを行った。参加者からはコロナに負けない気持ちを貰った、恩返しができるようにしたいとの声をいただいた。

1) 生活福祉資金の貸付

年度	相談件数 (延べ)	実人数
平成30年度	1,161	755
令和元年度	1,317	770
令和2年度	28,122	10,936

特例貸付が始まり、感染予防を心掛けながら相談対応を行った。面談では限界を迎えた為、早期に郵送に切り替えし、多くの相談に対応。また、夕方には職員で振り返る時間を設け、制度の情報共有を行い、対応力をつけた。相談延べ件数は、前年度比21倍、実人数は、前年度比14倍となった。

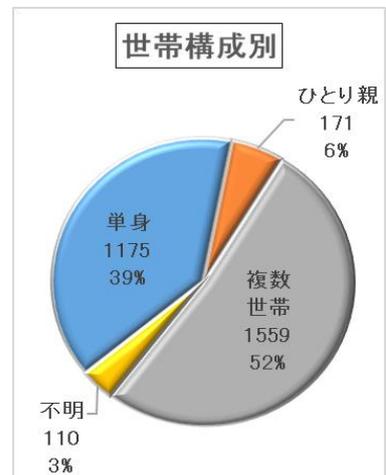
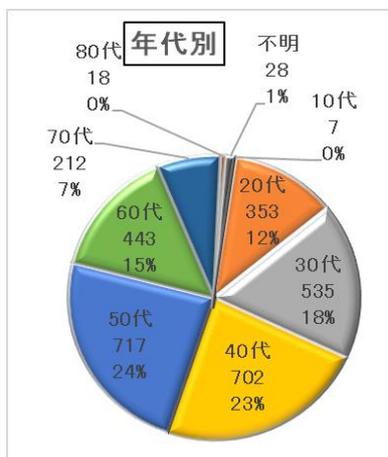
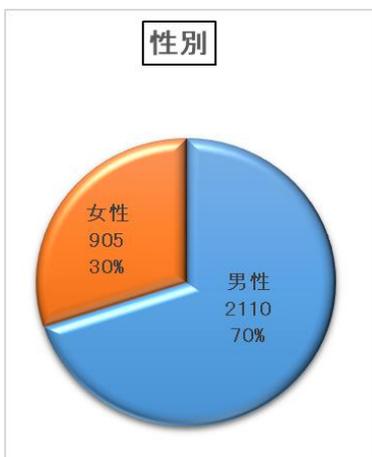
貸付決定件数

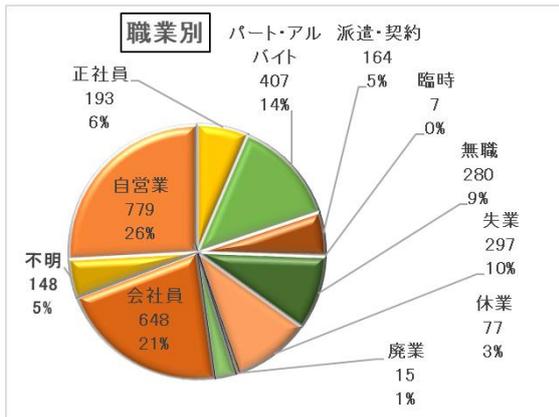
	貸付決定	貸付総額
福祉資金	14件	8,825,000円
教育支援資金	51件	98,887,000円
総合支援資金	5,444件	2,253,510,000円
緊急小口資金	3,009件	566,951,000円
不動産担保型生活資金	1件	4,396,000円

合計 8,519件

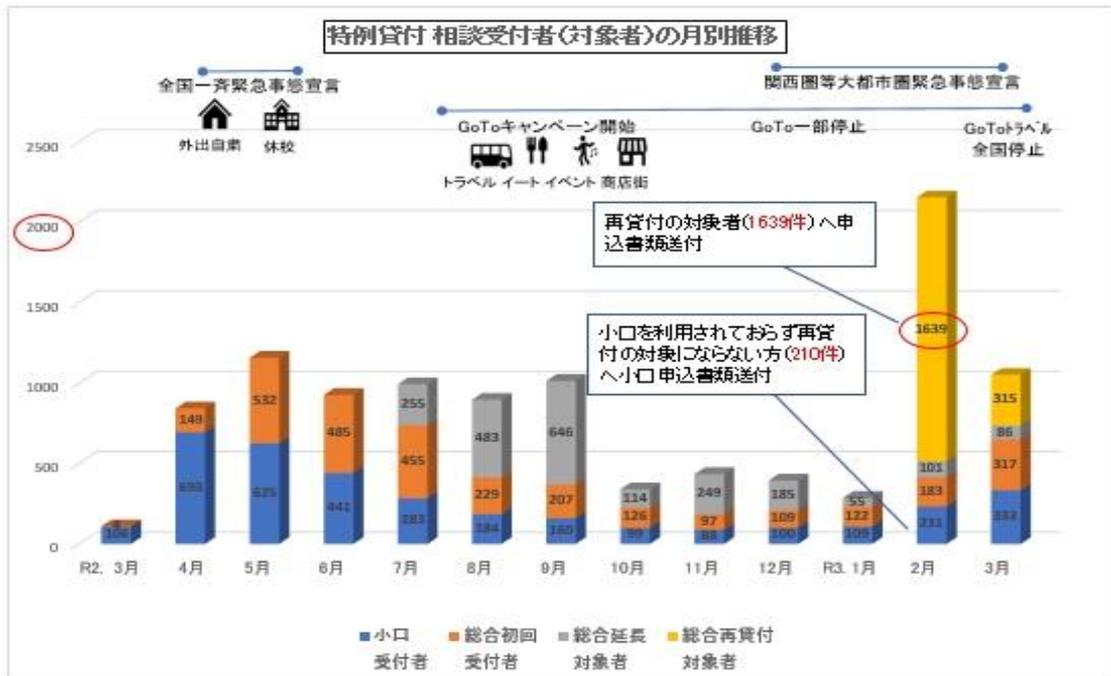
コロナ以前は順調に学費を支払っていた世帯からの相談が多く、教育支援資金は昨年度の1.5倍の相談となった。

2) 特例貸付（総合支援資金）の相談者の状況

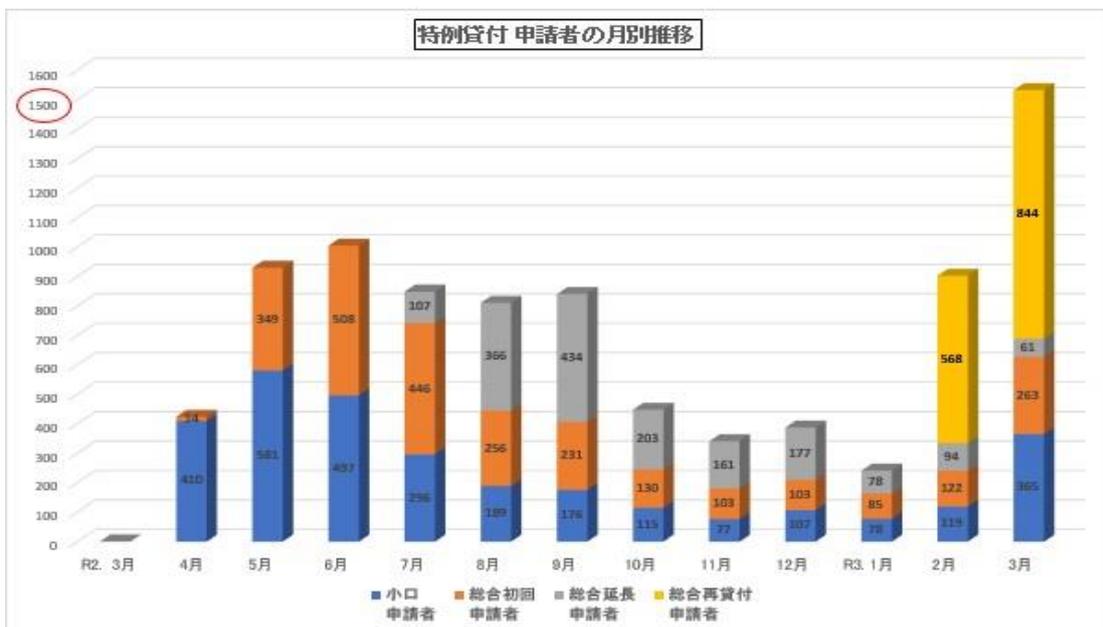




3) 特例貸付の相談受付者（対象者）の月別推移



4) 特例貸付の申請者の月別推移



5) 特例貸付（総合支援資金）の相談者の状況（学区別）

【特例貸付】総合支援資金 相談者の状況(学区別)

令和2年3月25日～令和3年3月31日現在

ブロック名		志賀ブロック			
学区名		小松	木戸	和邇	小野
相談者数		34	32	67	13
性別	男性	29	24	39	8
	女性	5	8	28	5
年代別	10代	0	0	1	0
	20代	2	2	11	1
	30代	6	6	9	1
	40代	5	10	13	3
	50代	10	7	17	3
	60代	8	4	7	4
	70代	3	3	6	1
	80代	0	0	1	0
	不明	0	0	2	0

ブロック名		北部ブロック						
学区名		葛川	伊香立	真野	真野北	堅田	仰木	仰木の里
相談者数		2	16	63	62	198	8	48
性別	男性	2	11	49	42	134	5	36
	女性	0	5	14	20	64	3	12
年代別	10代	0	0	0	1	1	0	0
	20代	0	3	7	2	25	1	6
	30代	0	3	8	7	38	1	13
	40代	0	3	16	13	51	0	12
	50代	1	3	15	11	50	2	10
	60代	1	2	13	19	26	2	3
	70代	0	2	4	7	6	2	3
	80代	0	0	0	0	0	0	0
	不明	0	0	0	1	1	0	1

ブロック名		比叡ブロック				
学区名		雄琴	日吉台	坂本	下阪本	唐崎
相談者数		111	16	137	118	202
性別	男性	81	13	87	82	138
	女性	30	3	50	36	64
年代別	10代	0	0	0	0	0
	20代	12	0	18	24	23
	30代	28	3	36	27	32
	40代	19	4	27	19	56
	50代	34	5	25	30	45
	60代	13	3	17	9	33
	70代	4	0	12	6	11
	80代	1	0	0	2	2
	不明	0	1	2	1	0

ブロック名		中部ブロック					
学区名		滋賀	山中比叡平	藤尾	長等	逢坂	中央
相談者数		160	21	75	96	69	38
性別	男性	107	17	59	64	43	26
	女性	53	4	16	32	26	12
年代別	10代	2	0	0	0	0	0
	20代	17	0	5	5	7	3
	30代	26	2	13	12	16	4
	40代	29	3	18	24	14	11
	50代	40	4	16	25	13	8
	60代	23	7	14	21	16	7
	70代	21	5	7	7	2	5
	80代	1	0	1	0	0	0
	不明	1	0	1	2	1	0

ブロック名		中南部ブロック			
学区名		平野	膳所	富士見	晴嵐
相談者数		86	154	71	182
性別	男性	64	112	47	134
	女性	22	42	24	48
年代別	10代	0	0	0	0
	20代	8	15	6	13
	30代	19	21	12	28
	40代	20	35	19	49
	50代	17	44	14	55
	60代	12	26	10	26
	70代	9	12	8	9
	80代	1	0	1	1
	不明	0	1	1	1

ブロック名		南部ブロック			
学区名		石山	南郷	大石	田上
相談者数		126	75	45	88
性別	男性	81	54	36	68
	女性	45	21	9	20
年代別	10代	0	0	0	0
	20代	12	11	4	9
	30代	18	11	6	16
	40代	27	20	12	15
	50代	28	18	14	16
	60代	24	5	5	19
	70代	15	8	4	9
	80代	1	1	0	2
	不明	1	1	0	2

ブロック名		東部ブロック					
学区名		上田上	青山	瀬田	瀬田南	瀬田東	瀬田北
相談者数		12	20	115	138	116	201
性別	男性	8	15	80	98	75	142
	女性	4	5	35	40	41	59
年代別	10代	0	0	0	0	0	2
	20代	0	0	28	14	27	32
	30代	0	1	15	28	24	45
	40代	6	4	28	40	34	43
	50代	4	11	28	27	19	48
	60代	0	2	14	19	7	22
	70代	2	0	1	9	4	5
	80代	0	1	1	0	0	1
	不明	0	1	0	1	1	3

実人数 3015

6) 法外援護及び法外扶助事業（本会取り扱い分）

やむを得ない事情で生活困窮に陥った低所得世帯を、緊急的な一時支援として法外援護費を給付した。また、給付に伴い、生活再建にむけた自立支援を「生活困窮者自立支援事業」と一体的に行っており、令和2年度は新型コロナウイルスの影響を受け、収入減少に伴う相談が多かった為、通常時よりも利用が多かった。

また、所持金の紛失などにより援護を求めた方には、最低限度額の旅費等を法外扶助費として支給した。

法外援護費	32件	329,018円
法外扶助費	39件	9,360円（旅費等）

※上記のほか、学区社協では、独自に法外援護として貸付けを実施。

・顧問弁護士による相談事業

本会では、平成15年度より、顧問弁護士に、助言・指導をいただいている。令和2年度は月2回、計24回の定例弁護士相談を実施した。

令和2年度は新型コロナウイルスの影響もあり直接対面での相談が困難であったが、ZOOMを活用したりリモート相談により定例相談を継続可能にした。感染リスクの低下に加えて時間帯の融通も効いたため、円滑で柔軟な相談に繋がった。

顧問弁護士：土井法律事務所（土井裕明弁護士・黒田啓介弁護士・堀田直美弁護士）

相談実件数は69件（令和元年度73件）となった。その内、定例の弁護士相談以外で電話や訪問対応を実施したのは12件であった。

また、相談延べ件数は101件（令和元年度95件）（重複した相談を含む）となった。

令和2年度 顧問弁護士の相談件数

相談内容	件数	相談内容	件数	相談内容	件数
生計・多重債務	23件	結婚・離婚	5件	年金	1件
財産・遺言	12件	職業・生業	5件	問い合わせ	1件
人権・法律	10件	事故	4件	母子父子福祉	0件
家族	9件	障がい者福祉・虐待	1件	教育・青少年	0件
住宅	8件	児童福祉・虐待	1件	医療	0件
権利擁護・後見	7件	高齢者福祉・虐待	1件	健康・保健・衛生	0件
近隣トラブル	5件	悪徳業者・消費生活	1件	その他	7件

合計 101件

・顧問司法書士による相談事業

本会では、小額の借金や住宅の相談など、家計再建にかかる法律的な支援を必要とする相談が増加したことから、平成26年度より司法書士と顧問契約を締結し、きめ細かい相談事業を展開した。

顧問司法書士：ばてん司法書士事務所 馬殿貞爾司法書士

相談実件数は、27件（令和元年度40件）となっており、市社協で実施している各相談事業の強い後ろ盾となった。また、相談延べ件数は41件（令和元年度40件）（重複した相談を含む）となった。

令和2年度においては、社協の活動を専門機関に多く知っていただく機会の獲得と、より多くの相談者の方に円滑に相談に繋がるよう顧問契約は結んでいないが羽田司法書士事務所にも相談の依頼をした。

令和2年度 顧問司法書士の相談件数

相談内容	件数	相談内容	件数	相談内容	件数
生計・多重債務	18件	健康・保健・衛生	1件	人権・法律	0件
財産・遺言	8件	高齢者福祉・虐待	1件	問い合わせ	0件
住宅	6件	事故	0件	母子父子福祉	0件
家族	4件	障がい者福祉・虐待	0件	教育・青少年	0件
年金	1件	児童福祉・虐待	0件	結婚・離婚	0件
権利擁護・後見	1件	近隣トラブル	0件	職業・生業	0件
医療	1件	悪徳業者・消費生活	0件	その他	0件

合計 41件

・大津市子ども・若者総合相談窓口業務

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大への対応で面談、訪問の制限を実施するなど例年になく対応が続く年となった。滋賀県の新型コロナウイルス感染対策の指標に合わせて、滋賀県独自の警戒レベルが「警戒ステージ」の期間は面談や訪問、同行を延期する対応を行い、やむを得ない面談については15分を目安に実施することとした。コロナ禍における対応として、相談員から相談者への定期連絡の電話や手紙の郵送を実施した。

また、ひきこもり支援に関して、令和2年度は滋賀県社会福祉協議会から「ひきこもり者・家族が孤立しない地域支援体制づくり事業」助成を受け、以下の5つの取り組みを実施した。

① 近江南部ネットワークづくり

県社協、近江南部（野洲市、栗東市、守山市、草津市、大津市）の各市社協でネットワーク会議を立ち上げ、協議を重ね、講師に周防美智子氏と松崎雛乃氏を迎え「ひきこもり支援を考えるフォーラム」を会場参加とオンライン参加のハイブリッド方式で令和3年3月21日に開催した。（会場参加27名、オンライン参加23名）

② 家族会活動支援団体への支援

大津市内においてひきこもり者の家族会を実施している団体に対して協力、後援、活動助成を実施した。（広報活動用プリンター購入費、クリアファイル作成費用助成）家族会における講師と後援依頼を受け、ひきこもり講座へ出席（令和2年度内の開催がコロナウィルスの影響で延期となり6月に開催予定）

③ ファジー会議の開催

大津市保健所、県ひきこもり支援センター、子ども発達相談センター、市文化・青少年課、大津市社協においてひきこもり支援を中心とした関係機関とのつながりづくりを実施（R1年7月、10月、R2年1月、3月）

④ おうみ子ども・若者未来のタネプロジェクト

学校に行きづらい、または不登校状態にある子どもや保護者が地域社会から孤立することなく早期に悩みを相談することができ、学校以外の学びの場所や安心して過ごせる居場所につながるができるように大津市内各所にある民間のフリースクールや親の会、居場所活動を行っている団体が一覧になったガイドブックを作成した。作成にあたって、実際に不登校・ひきこもり支援活動を行っている伊藤いつか氏と大町千恵氏を中心にガイドブックの作成を進めた。800部作成、ダウンロード版は大津市社協のホーム

ページからダウンロードができるようにした。必要な人の手に届きやすいように市民センターや関係機関等に配布した。

⑤ ひきこもり一斉電話相談

滋賀県社会福祉協議会主催による「ひきこもり一斉電話相談」に参画した。令和2年度は令和2年7月30-31日、11月26日、令和3年3月18日の3回実施。大津市社会福祉協議会には合計3件の相談があった。(県内全体の相談件数は35件)

集計・統計に関しては、子ども・若者支援について共通の指標が定められていないため相談窓口によって集計の取り方が異なる現状がある。ひきこもり支援に関する相談分析が市や県から求められる傾向があり、相談のアセスメントや評価、分析方法について市や県とも検討することが必要である。

コロナ禍で訪問や面談が難しい中、電話やメール、手紙で、つながりが切れないように工夫した。

1) 相談体制

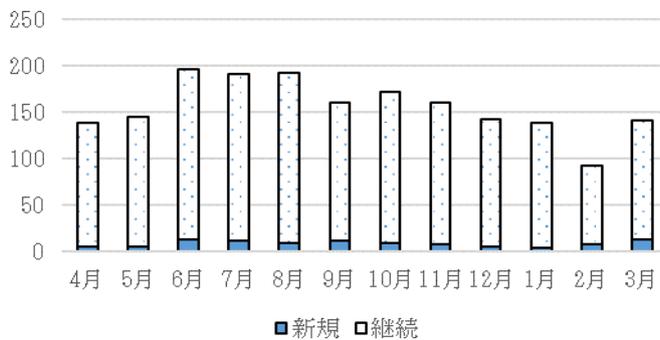
常勤1名、嘱託1名、臨時2名 *1日当たり3名出勤体制

2) 相談状況

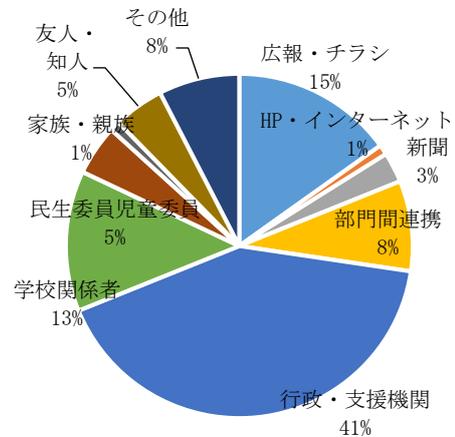
相談件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規	6	5	13	12	10	12	9	8	6	4	8	13	106
継続	133	140	183	180	183	149	163	152	137	135	85	129	1769
合計	139	145	196	192	193	161	172	160	143	139	93	142	1875

(R1年度：新規141、継続1640、合計1781件)

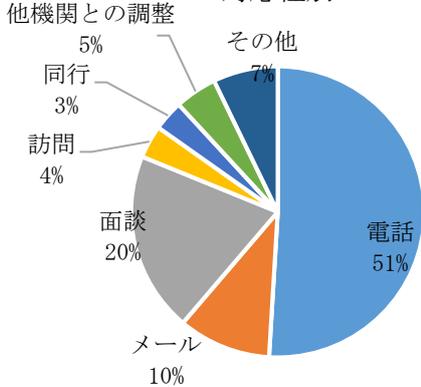
相談件数



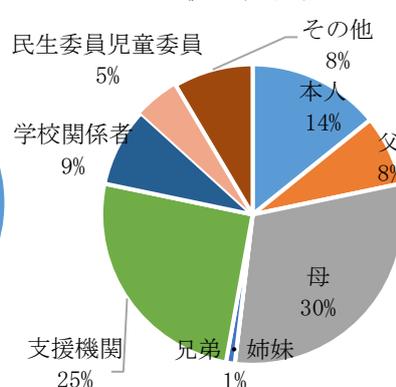
相談経路



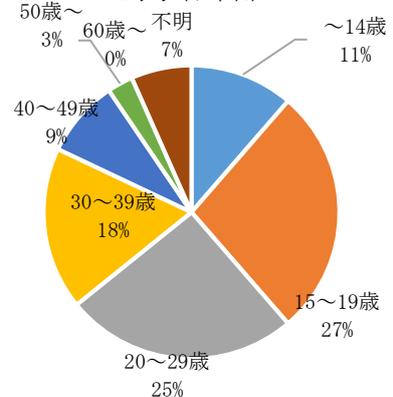
対応種別



初回相談者



対象者年齢



・大津市高齢者等地域見守りネットワーク事業

1) 目的

地域をフィールドに活動する企業・団体と見守りネットワークを構築し、異変等を発見した際に迅速に対応できる体制を確保することにより、高齢者等が住み慣れた地域で安心した生活を送れるよう支援する。

2) 内容

協定締結事業所が日常業務、営業活動の中で「普段と様子が違う」「おかしい」「ちょっと心配」などの異変を感じた場合、代表窓口となる本会に連絡いただくと、市民生委員児童委員協議会連合会など関係機関と連携し、支援を行う。ただし、受付時間は平日午前9時から午後5時までとし、休日や緊急を要する場合は事業者より警察、消防等へ通報した後、本会へ連絡をいただいている。

3) 事業主体

社会福祉法人大津市社会福祉協議会
大津市民生委員児童委員協議会連合会
大津市
市内事業所

4) 見守りネットワーク協定締結事業所

	事業所	締結日
1	読売販売店大津地区販売店 17店舗	平成26年5月23日
2	明治安田生命保険相互会社 滋賀支店	平成27年2月1日
3	ヤマト運輸株式会社 滋賀主管支店	平成27年3月27日
4	大津市企業局	平成27年4月1日
5	布亀株式会社	平成27年6月22日
6	株式会社プロテクト (サンライズ坂本・移動スーパーとくし丸)	平成27年12月22日
7	京滋ヤクルト販売株式会社	平成28年8月1日
8	京都新聞滋賀県専売会大津ブロック	平成29年2月1日
9	レーク大津農業協同組合	平成29年3月28日
10	生活協同組合コープしが	平成29年11月16日
11	ワタミ株式会社	平成30年10月1日
12	大津市コンビニエンスストア協会	平成30年11月15日
13	公益社団法人 大津市シルバー人材センター	平成30年12月21日
14	株式会社 大津衛生社	平成31年3月5日
15	株式会社セブン-イレブン・ジャパン	令和元年10月1日
16	株式会社 平和堂	令和元年10月1日
17	株式会社 スズケン 大津支店	令和3年1月19日

5) 活動状況

①連絡件数：8件（前年度10件）

②活動内容（抜粋）

日 時：令和2年6月5日

事業所：コープしが

内 容：「生協利用者で大量注文をされる独居高齢者がおられ、心配。」

⇒あんしん長寿相談所から、担当のケアマネージャーと親族とつながる。親族と相談し、今後はヘルパーと一緒に注文いただくこととなった。

日 時：令和3年3月28日

事業所：ワタミ株式会社

内 容：「決まった時間にお弁当を宅配している方が、以前は玄関の鍵を開けてくれたが最近では開けておらず、ここ最近はいびきが見られるため気にかかる。」

⇒あんしん長寿相談所が関わっておられる方で、主治医も交えて対応にあたっていることが分かる。配達員が知っている生活状況をあんしん長寿相談所に伝え、必要な支援につなげる。

・いのちのバトン推進事業

1) 事業目的

本事業は、救急医療情報キット「いのちのバトン」の配布を通して、救急時に役立つとともに、健康面やひとりであることに不安を抱えながら在宅生活を送る方の安心感の確保や、学区社協を中心に小地域において声掛け、訪問活動の促進及び地域のつながりづくりによる地域福祉の充実を図ることを目的としている。

2) 事業実施主体

学区社協が主体となって学区内の実情に応じて、地区民児協・学区自治連合会等の関係機関・団体と協働して取り組んでいる。

3) バトンの配布先

原則75歳以上の独居高齢者を対象としているが、その他学区の実情に応じて年齢等の条件設定をさせていただき配布した。

4) 配布本数

1,189本（令和2年度）

58,224本（累計）

5) 救急隊の活用件数

1件（令和2年度）

64件（累計）

平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度
12件	12件	6件	3件	4件	1件	1件

(3) 相談を受け止め、対応する力の向上

① 地域の中での相談力の向上を図ります		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
困りごとを抱えた方の「SOS」を身近な地域でいち早くキャッチすることができるよう、民生委員児童委員を対象にした相談活動セミナーのほか、傾聴ボランティア講座、福祉委員の研修等を通じて、地域の中での相談力の向上を図ります。	民生委員児童委員を対象にした相談活動セミナーは、5回シリーズで開催し86名が修了。次年度地域のふれあい相談員として活動予定。 傾聴ボランティア講座では18名が修了し、ボランティアグループ等で活躍予定。 福祉委員研修会もコロナ禍で自粛される学区もあったが、時期をずらしながら実施の工夫がされた。	感染症対策が必要な中での傾聴活動の方法の検討が必要。また、対象者を高齢者に特化した形で進めてきたが、子育て中の親や、障がい者、ヤングケアラー、ペット問題等、他のニーズへの対応も検討する。

主な事業

・傾聴ボランティア講座の開催

高齢者に寄り添ってお話を聴く「傾聴ボランティア」を養成するとともに、ボランティア活動に必要な「コミュニケーション力＝聴くこと」の大切さや、「聴き方」の基本を研修や実践をとおして学んでいただいた。

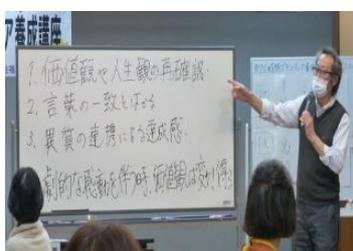
受講者：19名（修了者）

	日時及び会場	内 容	講 師
講義 ①	令和2年11月5日(木) 10:00-12:00	話し方・笑顔の作り方 ～第一印象の大切さや 話し方の基本～	講師：話し方・マナーアドバイザー 安部田 幸子 氏
講義 ②	令和2年11月12日(木) 13:30-15:30	傾聴とは ～実践に役立つ演習～	講師：龍谷大学非常勤講師 扇田 宗親 氏
講義 ③	令和2年11月19日(木) 13:30～15:30	寄り添うとは ～自分も相手も 大切に作る～	講師：龍谷大学非常勤講師 扇田 宗親 氏
講義 ④	令和2年11月26日(木) 13:30-15:30	傾聴ボランティアグループ ダンボの会 ～傾聴ロールプレイング に挑戦～	講師：傾聴ボランティアグループ ダンボの会

※場所はすべて明日都浜大津4階ふれあいプラザホール



安部田氏講演の様子



扇田氏講演の様子



ダンボの会ロールプレイングの様子

・民生委員児童委員の相談セミナーの開催支援

大津市民生委員児童委員協議会連合会が主催する相談活動セミナーの開催を支援した。民生委員児童委員活動に必要な“相談を受けとめる力”を高めることを目的に、総合ふれあい相談所の相談員の養成も兼ねて、具体的な事例を検討する内容を盛り込んで開催した。

	日 時	内 容	講 師	参加者
1	6月25日	「ひとりで抱え込まないために」	前市民児協連 研修部長 一色誠三 氏	92名
2	7月22日	「話を聴くということ」	介護支援専門員 扇田宗親 氏	91名
3	8月31日	「法律相談との連携」	土井法律事務所 弁護士 土井裕明 氏	89名
4	9月25日	「暮らしの中の困りごと」	大津市社会福祉協議会 自立支援グループ	90名
5	10月22日	「相談・面接の進め方」	大津市社会福祉協議会 次長 山口浩次	96名

(4) コーディネーション力の高い専門職の充実

① コミュニティソーシャルワーカー、ボランティアコーディネーター、生活支援コーディネーター等の充実と質の向上を図ります

概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
コミュニティソーシャルワーカーやボランティアコーディネーター、生活支援コーディネーター等のコーディネーション力が向上するよう、研修等を充実します。	年6回の地域支援勉強会を開催し、引き続きコーチングの技術を学び実践したほか、今年度市社協で試行した目標管理制度と連動させながら、コミュニティソーシャルワーク実践の評価ポイントを話し合い、令和3年度における目標体系図（基本理念、重点目標やその達成手段）を作成した。	大学から講師を招いての勉強会は一度終了し、内部での会議やメンター制度を活用しながらコーディネーション力を高め合う。

主な事業

・CSW7名の配置。個別支援と地域支援活動を担当

コミュニティソーシャルワーカー（CSW）は、地域において、支援を必要とする人々の生活圏や人間関係等の環境面を重視した援助を行うとともに、地域を基盤とする支援活動を発見・開発して支援を必要とする人につなぎ、家族や地域住民、公的制度との関係を調整する地域福祉の専門職員である。

1) コミュニティソーシャルワーカー相談件数

(延べ：件)

相談内容	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
市社会福祉協議会関連	453	446	604	680	706
学区社会福祉協議会関連	808	1174	955	1,519	1,608
民児協関連	1935	1532	56	236	2,785
心配ごと相談 (高齢・障害・病気・孤立・地域)	1461	2718	3784	4,659	3,349
生活困窮・学習支援 (子ども・ひとり親・困窮)	867	1090	860	983	4,550
その他	201	412	248	213	3,434
合計	5,725	7,524	8,243	8,290	16,432

2) 活動状況

①個別支援と地域支援

1 人の困りごとは地域の困りごととらえ、その人が地域で居場所を見つけて、その人らしく過ごせることを目指して相談支援を実施した。また、個別の課題を地域の普遍的な課題と捉え、その課題について地域で支援する仕組みづくりを意識して活動を行った。

②関係機関との連絡調整

複合的な問題が絡み合う課題に対しては、様々な支援者が関わりながら対応することが必要である。個々の問題それぞれの対応に適した機関につなぐこと、その機関同士がつながるよう連絡調整を図る役割を担った。

③ブロック担当者連絡会議の開催

C SWは、市内7ブロックにそれぞれ分かれて配置されていることから、月に1度、各担当の活動や課題を共有し、協議する場を設けた（ブロック担当者会議）。

他のブロックの取り組みを知り、参考にすることが、各担当ブロックの活動の充実化につながった。

また、C SW全員で課題を共有し多角的に検討することが、より良い支援や、各C SWのコーディネーション力の向上につながった。

④地域支援勉強会の開催

C SWの技術及び質の向上、さらには地域福祉の推進を目的として、大学の研究者の協力を得て、年間6回、「地域支援勉強会」を開催し、以下の成果を得た。

- ・C SWが担当する事業について、事業を一步前に進めるために今年度の目標設定を行い、その実現のためのタイムラインを作成した。
- ・各事業の振り返りを効果的に行い、さらに事業を前に進めることを目的に、コーチングというコミュニケーション技術を学び実践した。コミュニケーション技術の学びと実践がC SWの質の向上につながった。
- ・令和3年度に向けて、グループの理念、重点目標を取り決め、その実現に向けた中期目標・短期目標を定めた。また、新任職員を迎えるにあたり、事業内容を分かりやすく伝えるための方法を話し合い、新体制においても令和3年度をスムーズに迎えられようとした。

・職員研修会の実施

職員を対象にした研修会は、コロナ禍で「新任職員」と、Zoomの使い方研修が主な研修となった。

1) 新任職員研修

日程	講師	内容
令和2年4月	大津市社会福祉協議会 事務局職員	社協の新基本要項 大津市社協のあゆみ・特徴

2) Zoomの使い方研修

日程	講師	内容
令和2年4～8月	肥後祐亮さん（特定非営利 活動法人グローバル人材開 発センター）	会議のオンライン化に伴うアドバ イス・Zoom活用等の支援

3) マネージメント研修会

日程	講師	内容
令和2年7月	県社協人材研修センター	中堅職員のためのマネージメント 研修会
令和2年11月	日本能率協会	マネージメント研修会

(5) 権利擁護支援の充実

① その人らしく地域で生活するための権利擁護のしくみづくりに努めます		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
地域福祉権利擁護事業や成年後見制度等の利用支援を進めるとともに、親族後見人、専門職後見人以外の受け皿を確保するため、法人後見事業を推進し、その人らしく地域で生活するためのしくみが安心して利用できるよう取り組みます。	地域福祉権利擁護事業では、権利侵害から護ることを目的に今年度新たに30名の契約を締結し、援助を行った。法人後見事業については、2件の支援困難案件を受任した。 また、おひとり様ずっと安心事業については、3名のモデル対象者と契約を締結し、安否確認のほか、入退院時のサポート、死後事務等を実施した。	モデル事業の継続を行い、おひとり様ずっと安心モデル事業の実施に向けたしくみづくりの構築を図る。

② 権利擁護関係機関などとの連携強化を図ります		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
地域の関係団体や事業者同士、市の関係機関、社会福祉協議会等、地域福祉に関わる関係組織が連携し、介護保険や障害福祉事業等の制度間の連携を図り、総合的に地域福祉を推進していきます。	介護・障害等の支援機関と連携し、コロナ禍における緊急対応や金銭トラブル、住まい、など日常の暮らしにかかる様々な支援調整を行った。 また、大津市障害者自立支援協議会において、新型コロナウイルス感染における濃厚接触者への新たな支援体制の構築を行い、連携強化に努めた。	感染症等により、緊急一時的に支援が困難となった場合の連携体制をスムーズに行えるよう基盤強化に努める。

主な事業

・法人後見事業の実施

成年後見制度の利用促進がすすむ中、法人の果たすべき役割のひとつとして、平成28年度より実施している。令和2年度においては、地域福祉権利擁護事業からの移行だけでなく、支援困難ケースとして、個人受任者から1件受任変更を行い、新たに2件を受任した。例年実施している、市内の弁護士・司法書士・社会福祉士会との研修会・なんでも相談会・事例検討会等の企画については、コロナ禍のため実施を見送る形となった。

1) 類型別受任及び終了状況 (人)

	後見		保佐		補助		合計	
	受任	終了	受任	終了	受任	終了	受任	終了
平成28年度	0	0	1	0	0	0	1	0
平成29年度	8	1	6	0	2	0	16	1
平成30年度	1	0	2	0	0	0	3	0
令和元年度	1	1	0	0	0	0	1	1
令和2年度	1	1	1	1	0	0	2	2
合計	10	2	9	0	2	0	23	4

2) 障害類型及び居所別受任状況 令和2年3月末現在 (人)

	認知症高齢者	知的障害者等	精神障害者等	合計
在宅	1	5	2	8
福祉施設	8	0	0	8
病院	2	0	1	3
合計	11	5	3	19

3) 障害類型別支援状況

(件)

障害類型内訳	支援内容							合計
	契約 行為	代理 行為	同意 行為	ケース 会議	連絡 調整	訪問	支払 手続き	
高齢	4	67	4	4	242	90	291	702
知的	1	37	0	0	213	79	198	528
精神	0	19	0	0	102	21	347	489
合計	5	123	4	4	391	190	836	1,719

年度当初より、感染予防対策を講じながらの継続訪問や緊急対応を行った。

なかでも、ケース会議等の中止や濃厚接触者となられた際の支援調整や緊急支援などを実施するなど、これまでにない関係機関との連携が増えた。

被後見人等が2名亡くなられたため、死後事務及び保管財産の引渡し等を行った。

・地域福祉権利擁護事業の実施

判断能力に困難性のある方や財産管理に不安をもっておられる方と契約を交わし、①福祉サービスの利用援助 ②日常の金銭管理サービス ③書類預かりサービスを中心に、日常生活における代理、代行、同行等の様々な支援を行った。こうした日常的なかかわりの中で、生活状況の変化を察知し、医療・福祉・行政などさまざまな関係機関と連携を図っている。

また認知症の進行をはじめ判断能力の低下が進み、法律行為に不安のある利用者は大津市権利擁護サポートセンター・弁護士・司法書士等関係機関と連携し、成年後見制度への移行に向けて支援した。

1) 相談援助件数 (延べ件数)

(件)

	認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	不明・その他	合計
平成27年度	5,948	4,449	3,013	216	13,626
平成28年度	5,331	5,121	2,837	281	13,570
平成29年度	3,965	4,523	2,815	304	11,607
平成30年度	5,481	5,006	3,529	575	14,591
令和元年度	4,595	5,614	3,637	460	14,307
令和2年度	4,117	6,062	4,969	511	15,639

2) 契約締結件数

(件)

	認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	不明・その他	合計
平成27年度	33	11	10	1	55
平成28年度	13	11	11	1	36
平成29年度	21	14	6	8	49
平成30年度	8	8	7	4	27
令和元年度	15	7	4	0	26
令和2年度	13	7	11	2	33
累計	103	58	49	16	226

3) 契約終了件数

(件)

	認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	不明・その他	合計
平成27年度	22	6	9	0	37
平成28年度	39	6	6	3	54
平成29年度	25	7	5	1	38
平成30年度	19	4	5	3	31
令和元年度	16	6	4	0	26
令和2年度	12	9	6	3	30
累計	133	38	35	10	216

※令和2年度終了件数内訳

(件)

	認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	不明・その他	合計
本人の希望	3	2	2	1	8
死亡	5	0	1	0	6
成年後見制度移行	4	2	2	1	9
その他	0	5	1	1	7

4) 年度末実利用人数

(件)

	認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	不明・その他	合計	生活保護
平成27年度	77	51	33	4	165	50
平成28年度	51	56	38	2	147	47
平成29年度	45	66	36	11	158	45
平成30年度	35	70	36	12	153	48
令和元年度	34	71	36	12	153	48
令和2年度	35	69	41	11	156	55

5) 年代別契約状況

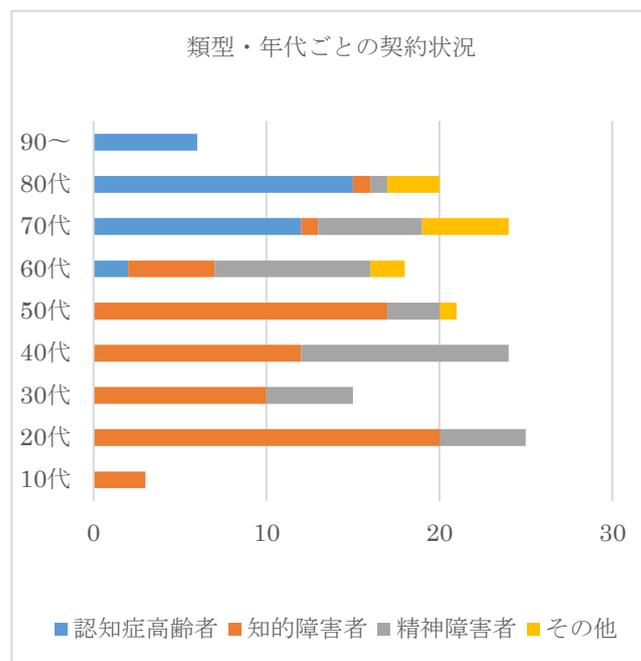
(件)

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	100歳以上	合計
平成30年度	5	28	14	24	13	19	27	18	4	1	153
令和元年度	1	25	17	22	18	17	28	19	6	0	153
令和2年度	3	25	15	24	21	18	24	20	6	0	156

6) 新規相談件数及び相談経路

(件)

相談経路	相談件数
生活福祉課	8
障害福祉課	3
子ども家庭相談室	2
あんしん長寿相談所	24
保健所	3
高齢者福祉施設	1
児童相談所	1
定着支援センター	1
病院	8
児童福祉施設	1
養護学校	1
居宅介護支援事業所	27
知的障害者支援機関	14
精神障害者支援機関	4
権利擁護サポートセンター	3
虐待防止センター	1
就労支援事業所	1
民生委員児童委員	1
本人・親族・知人	10
社協内	6
合計	120



・権利擁護支援における個別援助実績

法人後見事業・地域福祉権利養護事業においては、介護事業所や相談機関等、ご本人を取り巻く様々な支援者との情報共有や支援調整が要となることから、ケース会議に積極的に参加している。今年度は、コロナ禍の影響により、例年の6割程度の開催にとどまった。

あわせて、制度では補えない緊急一時的な支援や、必要に応じて同行や同席などの寄り添い支援も実施している。

1) ケース会議出席件数 (件)

類 型				合 計	分 類			合 計
高齢	知的	精神	その他		未契約	地権	後見	
19	37	21	3	80	11	65	4	80

2) 個別援助件数

地域福祉権利擁護事業

(件)

	類 型				伴走支援	代行支援	業者等の 立会い	物食料 支援	安否確認	緊急支援	買物支援	掃除P	その他
	高齢	知的	精神	その他									
小計	158	91	112	2	105	87	49	30	1	10	66	9	22
合計	363				379 (重複あり)								

法人後見事業

	類 型			伴走支援	代行支援	業者等の 立会い	物食料 支援	安否確認	緊急支援	買物支援	掃除P	その他
	後見	保佐	補助									
小計	27	31	23	33	10	19	3	1	6	5	1	6
合計	42			53 (重複あり)								

・おひとり様ずっと安心モデル事業

家族機能の低下に伴い、一人暮らし高齢者を取り巻く環境は、著しく変化している。なかでも、住まいの問題や日常の見守り、入退院時の支援や死後の事務など、既存の制度では解決できない困りごとについて支援を行い、最期まで安心して心豊かに暮らせる新たな事業展開にむけ、モデル事業を実施した。

また、具体的な援助経過を基に、課題や体制等について検証を行い、エンディングノートによる意向確認や死後事務委任契約の重要性を再確認した。次年度も引き続き継続することとし、新たなしくみづくりに向け、協議・検討を重ねます。

- 1) モデル対象：大津市内在住のひとり暮らし高齢者
- 2) 対象人数： 3名
- 3) 実施体制： 各種支払い行為・調整（権利擁護支援グループ）、伴走支援・関係機関連携（地域支援グループ）、出納管理（総務グループ）など、部門間連携による実施
- 4) 支援内容：①入退院時のサポート
 - ②火葬・葬儀・納骨等に関する手続き
 - ③遺品整理・家財処分に関する手続き
 - ④賃貸物件の解約・退去に関する手続き
 - ⑤行政官庁等の諸届
 - ⑥公共料金、医療費等精算及び解約手続き

・専門性の向上に対する取り組み

相談支援における援助技術はもとより、障害の理解や医療・福祉・社会保障などの様々な失策や社会資源など、幅広い知識が求められます。そこで、権利擁護支援の実践的な専門性を高めるため、積極的に研修に参加した。令和2年度においては、コロナ禍の影響により、ZOOM研修による参加となった。

滋賀県社会福祉士会基礎研修Ⅰ

日 程		参加者
令和2年10月3日(土)	社会福祉士のあゆみ 社会福祉士の専門性について 倫理綱領、行動規範の理解 など	奥野
令和3年1月16日(土)		

滋賀県社会福祉士会基礎研修Ⅱ

日 程	内 容	参加者
令和2年7月18日(土)	相談援助の視座と展開過程	森野 杉浦 沢本 梶原
令和2年10月17日(土)	実践のためのアプローチ 自立生活支援とコミュニティワーカー	
令和2年11月7日(土)	集合研修1「実践事例演習」	
令和2年11月28日(土)	社会資源の理解と社会資源開発 連携システムのあり方とネットワークの構築	
令和2年12月19日(土)	地域における福祉政策と福祉計画 社会福祉調査の方法と実際	
令和3年1月16日(土)	集合研修2「スーパー・バージョンとは」「スーパー・バイザー体験」	
令和3年2月20日(土)	実践研究の意義と方法・記録	
令和3年3月13日(土)	実践評価の方法	
令和3年4月24日(土)	集合研修3「実践研究発表の方法」	
令和3年5月22日(土)	社会福祉における法Ⅰソーシャルワークと権利擁護の視点Ⅰ	
令和3年6月19日(土)	社会福祉における法Ⅱソーシャルワークと権利擁護の視点Ⅱ	

※コロナ禍による日程変更により、全11回の日程のうち3回は令和3年度に持ち越しとなった。

(6) 大津市における地域包括ケア体制の構築

① 誰もが参加できる地域包括ケアに向けた地域力の向上を目指します		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
市民や行政、専門職が協力して地域包括ケアに取り組んでいくため、日頃からのつながりを構築し、課題解決へのサポートが得られるよう、地域力の向上を目指します。	第2層生活支援コーディネーターが、あんしん長寿相談所と連携・協働し協議体を通し、コロナ禍における見守りや孤立防止、外出控えによる心身への弊害などの問題を地域に投げかけ、日頃からのつながりの構築や地域力の大切さを訴えかけた。	第2層圏域で地域資源の充実に向け、高齢者の担い手養成、活動の創出、高齢者の活躍できる場づくりを進める。

② 地域での助けあい、支えあい活動の把握と連携の充実に努めます		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
市民と専門職同士、また、市民と専門職等のネットワークを強化し、困難を抱えている人に必要な支援を提供できるよう、地域での助けあい、支えあい活動を把握するとともに、生活支援におけるコーディネート機能を充実します。	登録のあるふれあいサロン197ヶ所に「基本情報確認シート」「コロナ禍におけるふれあいサロンアンケート」を送付し147ヶ所から回答があった。集計結果と活動のヒント集を送付した。 「ささえ合い活動交流会」を開催し、ささえ合いの活動者同士の情報交換の場を設け、課題を把握した。	地域の資源について行政（長寿政策課・あんしん長寿相談所）とワーキンググループをつくり新たに取り組む課題を明確化し、具体的な活動を実施する。

主な事業

・生活支援体制整備業務

1) 事業の目的

本事業は、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう「生活支援コーディネーター」の配置と「協議体」の設置により、地域での助け合いやささげ合い活動を育み、地域力の向上を目指すことを目的としている。

2) 実施主体

大津市（大津市より受託）

3) 事業の内容

生活支援コーディネーター(*1)の活動と、協議体(*2)などによるつながりづくりから、地域に高齢者の生活を支える仕組み、高齢者の活躍できる場づくりを推進する。

*1「生活支援コーディネーター」

高齢者の日常生活における困りごとを把握・共有しながら、地域の実情に合わせた仕組みづくりを行っている。そのために、地域の社会資源である人と人、人と活動、活動と活動を「発掘・つなぎ・発信」し、助け合いや支え合いの推進役である。

*2「協議体」

地域のみなさんと高齢者の生活支援に携わる介護事業所、福祉施設、法人、企業、ボランティア団体など多様な主体が、それぞれの知恵や工夫を活かして暮らしやすい地域づくりを進める話し合いの場である。

令和2年度	生活支援コーディネーター	協議体
大津市全域(第1層)	1名(第2層兼務)	1ヶ所
7保健福祉ブロック(第2層)	7名	7ヶ所

① 協議体の運営

大津市が開催する第1層（大津市域）協議体、あんしん長寿相談所が開催する第2層（7保健福祉圏域）協議体に企画段階から参画し協議体の運営に協力した。

ア) 第1層（大津市域）

令和2年度第1層協議体連携会議	
開催日	令和3年3月1日(月)14:00～15:30
開催場所	明日都浜大津ふれあいプラザ4階(中会議室)
<p>【テーマ】 コロナ禍における高齢者の暮らしと活動の変化について *新型コロナウイルス感染症拡大予防のためオンライン(zoom)&会場参加で開催</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会挨拶 2. 自己紹介 3. 第1層協議体連携会議について 4. 情報提供 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 中あんしん長寿相談所 ～コロナ禍での高齢者の暮らしの変化～ ▶ 大津市社会福祉協議会 ～大津市社協フードバンクの取り組みについて～ ▶ 大津市シルバー人材センター ～介護事業・生活支援サービス件数から見えること～ 	



▶ 生活協同組合コープしが ～宅配事業に関する組合員の声～

- 5. 情報交換
- 6. 第2層協議体の動き
- 7. まとめ



〔第1層協議体メンバー〕	
1	大津市老人クラブ連合会
2	公益社団法人 大津市シルバー人材センター
3	社会福祉法人 大津市社会福祉協議会
4	生活協同組合コープしが
5	レーク大津農業協同組合
6	大津市コンビニエンスストア協会
7	株式会社 平和堂
8	京都信用金庫
〔事務局〕	
大津市役所健康保険部長寿政策課地域包括ケア推進室(4名)	
あんしん長寿相談所(4名)	
本会の参加者(8名)	

イ) 第2層 (7保健福祉圏域)

＜志賀ブロック＞		
第1回	令和2年6月2日(火)	志賀健康いきいき祭について 移動について
第2回	令和2年10月13日(火)	ふれあいサロン交流会について 移動について
イベント	令和2年12月18日(金)	学区社協と福祉施設の勉強会・懇談会
第3回	令和3年3月2日(火)	移動について
メンバー	学区社協会長、事務局長、福祉施設 ほか	
内容	<p>昨年度に引き続き、協議体の検討課題を「移動」とし、地域の現状共有を行った。また、モデルとして買い物支援を実施するのあたり、ふれあいサロンを対象に、福祉施設の車を活用した移動について検討を行ったが、福祉施設の賛同が得られなかった。</p> <p>例年の志賀健康いきいき祭は日程調整まで行うものの、コロナがで中止。初のふれあいサロン交流会もコロナ禍で中止せざるを得なかった。</p>	



<北部ブロック>		
第1回	令和2年6月17日(水)	第2回真野北学区見守り会議
第2回	令和2年9月16日(水)	第3回真野北学区見守り会議
第3回	令和2年12月17日(木)	第4回真野北学区見守り会議
イベント	令和2年11月21日(土)	北部ブロック地域福祉講座
メンバー	自治連会長(兼自主防災)・自主防犯・各自治会長・消防団・ふれあいサロン・福祉委員・大津北警察署・北消防署・真野しょうぶ苑・新聞販売店・民生委員児童委員・支所長・民児協会長・学区社協会長・学区社協事務局長	
内容	<p>真野北学区見守り会議では、安心して暮らすことができる真野北学区をテーマに、自治連、民児協、学区社協の各会長がコアメンバーとなり、事前にコア会議を開催して、それぞれの取り組み事業や真野北学区での見守りの現状について共有し会議内容を検討した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月開催の第2回真野北学区見守り会議では、コロナ禍でしたが、受付時の検温、消毒やマスクの着用、部屋の換気など感染症対策を講じて、コロナ禍で自粛中の見守り活動について、5班に分かれ意見を出し合い全体で共有した。相談ができる窓口の明確化や、気軽に声が掛けられる風土づくりや両隣3軒でのチームづくりなど横のつながりの大切さをあらためて感じた。 ・9月開催の第3回真野北学区見守り会議では、各自治会から参加いただき、自治会での見守り活動について自治会ごと5班に分かれ意見を出し合い共有した。あらためて、小さな単位で支え合う仕組みづくりが必要 ・12月開催の第3回真野北学区見守り会議では、身近にあるちょっとした困りごとを「助け合いゲーム」を通じて体験した。このゲームそのものが、地域で起きている困りごとや助け合いだと認識ができた。今後は小さな単位での仕組みづくりの構築のためモデル自治会を決めて開催する。 	
		

<比叡ブロック>		
第1回	令和2年9月8日(火)	令和2年度 第1回 おむすびネット比叡
イベント	令和2年11月12日(木)	比叡ブロック社協 会長・事務局長連絡会議にて登壇
イベント	令和3年2月20日(土)	唐崎学区社協「福祉のまちづくり講座」にて登壇
メンバー	高齢・障害・児童等の分野を超えた福祉専門職、地域のボランティアグループ	
内容	<p>地域の福祉施設と地域団体の連携をねらいとて、以下を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・比叡ブロック社協会長・事務局長連絡会議、唐崎学区社協「福祉のまちづくり講座」に高齢分野の福祉専門職が登壇して「認知症と家族支援」「専門職から見たコロナ禍における地域への気づき」について講話し、地域における見守りや地域活動の重要性を改めて共有した。また、地域活動の担い手と地域福祉専門職の連携のきっかけとなった。 	
		

＜中部ブロック＞		
第1回	令和2年9月9日(水)	第1回 中部ブロック協議体連携会議
第2回	令和2年11月16日(月)	第2回 中部ブロック協議体連携会議
第3回	令和3年2月25日(木)	第3回 中部ブロック協議体連携会議
メンバー	学区社協会長・事務局長、地区民児協会長・副会長、学区自治連合会会長、特別養護老人ホーム施設長、薬局代表・薬剤師、※警察署、※信用金庫、※商店街振興組合、※スーパー、※住職、※一般企業	
内容	<p>長等・逢坂・中央の3学区が対象エリア。</p> <p>①つながりをつくる②見守りの目を増やす③小さな単位での支え合う仕組みをつくるという3つの目的を掲げ、話し合いを進めている。昨年度までは地域で気軽に集まれる居場所づくりに取り組んでいたが、今年度はコロナのため活動に取り組めなかった。それに代わり、今年度は地域づくりを進めていくための協力者の拡大に努めた。(上記※印が新規参加メンバー)</p>	
		

＜中南部ブロック①＞ 高齢者のお悩み共有会(晴嵐・富士見版)		
第1回	令和2年8月3日(月)	第10回 高齢者のお悩み共有会(晴嵐・富士見版)
第2回	令和2年9月23日(水)	第11回 高齢者のお悩み共有会(晴嵐・富士見版)
メンバー	晴嵐学区、富士見学区の地域活動従事者 (自治会長、民生委員、学区社協、石山商店街振興組合など)	
内容	<p>*買い物の困りごとへの取り組みについて共有する</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 地域のスーパーの高齢者に向けた取組みについて聞き取りをおこなった ▶ 「コープぜぜ」(お買い物サポートカー)についてゲストスピーカーとしてお話しいただく <p>⇒ 次年度は買い物の困りごとへの取組みについて協議する</p>	
		 ゲストスピーカー「コープぜぜ」

＜中南部ブロック②＞ 高齢者のお悩み共有会(膳所・平野版)		
第1回	令和3年3月22日(月)	第1回 高齢者のお悩み共有会(膳所・平野版)
メンバー	膳所学区自治連・膳所学区社協・平野学区自治連・平野学区社協・平野地区民生委員 介護事業所(通所介護、通所リハビリ)	
内容	<p>*地域の困りごとに対し多様な主体と連携・協働による課題解決を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 地域の情報共有 <ul style="list-style-type: none"> a) 地域の高齢者の「不安こと・心配なこと」 b) 地域の自慢「ええろこと」 <p>⇒ 次年度は実際の取組みについて協議する</p>	
		

＜南部ブロック＞	
①石山学区懇談会（全9回）6/24、7/15、8/19、9/15、10/21、11/24、12/18、1/25、3/3	
②田上地域づくり連絡会（全2回）12/9、3/10	
メンバー	①学区社協、民児協、あんしん長寿相談所、すこやか相談所 ②学区自治連合会、学区社協、民児協、学区住民、サロン運営者、介護保険サービス事業所、あんしん長寿相談所、すこやか相談所
内容	各学区の懇談会の充実により、生活支援体制整備を推進する方針で協議体を運営している。 ①石山学区では、UR団地の高層階に住んでおられる方から日々のゴミだしに困っているとの声が上がったことをきっかけに、「UR団地内ゴミだしお助けサポーターモデル事業」について、意見交換を進めてきた。1月にはサポーター募集のチラシをUR団地内全戸に配布し、サポーターの応募があったため、令和3年度の実施に向けて準備を進めている。 ②『「楽しく！健康に！見守り合いができる田上！」を小さな地域（自治会単位）で取り組もう！』をテーマに話し合いを行いました。「いきいき百歳体操をもっと身近な場所で行いましょう。」「SNSを活用することで、新たな安否確認の方法を考えられないだろうか。」「農作業を通して、人とつながれないだろうか。」等々令和3年度の実施に向けて色々なアイデアが生まれました。
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>①配布チラシ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>①チラシ配布時の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>②田上地域づくり連絡会</p> </div> </div>	

＜東部ブロック＞		
第1回	令和2年10月5日(月)	令和2年度 第1回 住みまちプロジェクト
第2回	令和3年3月3日(水)	令和2年度 第2回 住みまちプロジェクト
メンバー	東老人福祉センター、瀬田商工会、民生委員児童委員、レイカディア大学OB、地域の助け合い活動実践者	
内容	<ul style="list-style-type: none"> * 「リーフレット・居場所・ボランティア」の三本柱の「ボランティア」を進める ▶ 「リーフレット」（福祉の相談窓口、実費サービス、配食サービスなど）は完成し配布を始めた。 ▶ 「ボランティア」はボランティアをたくてもつながっていない人と、ボランティアを募集している東部ブロックのボランティアグループをつなげる「出会いのボランティアカフェ」開催に向けて動きだした。 <p>⇒ 次年度「出会いのボランティアカフェ」を開催する。</p>	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>		

② 地域福祉の担い手支援

ア) 地域福祉担い手講座の開催

令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、地域福祉活動やボランティア活動は大きな影響を受け、休止を余儀なくされた。コロナ禍においても、地域での助けあい、ささえあい活動を通し見守りの充実や、ひとり暮らし高齢者の孤立を防ぐなど「with コロナ新しい地域福祉活動」を地域で展開していただくことを目的に「地域福祉担い手講座」を開催した。

令和2年度地域福祉担い手講座			
開催場所	明日都浜大津ふれあいプラザ5階（大会議室）		
内 容			
	①ささえ合い活動 スキルアップ講座	②移動支援交流会	③おやじ塾同窓会
11/4(水) ふれあいプラザ (ホール)	公開講座 「コロナ禍でも続けられるささえ合い」 夢こらぼ主宰 松尾 やよい先生		
11/9(月) ふれあいプラザ (ホール)	/		令和2年度第2回 移動支援交流会
11/9(月) ふれあいプラザ (ホール)			おやじ塾同窓会
11/11(水) ふれあいプラザ (ホール)	ささえ合い活動 情報交換会	/	
11/18(水) ふれあいプラザ (ホール)	公開教室 会えなくてもつながる方法「絵手紙体験教室」宮野 直美氏		
11/27(金) ふれあいプラザ (大会議室)	公開講座 「魅力ある活動を広めるために～効果的なチラシの作り方～」 夢こらぼ主宰 松尾 やよい先生		

11/4 地域福祉担い手公開講座

活動者も元気になる！忙しいって活力になる。



11/9 移動支援交流会

コロナ禍、担い手不足でどうしよう…。



11/9 おやじ塾同窓会

「チームおやじマイスター」結成！



11/18 絵手紙体験教室

絵手紙はこころとこころがつながります

11/11 ささえ合い活動情報交換会(参加者 7 名)



悩みが共通しているということがわかりました。
とにかく、やりがいを持って楽しくやっていきましょう！

11/27 効果的なチラシのつくり方(参加者 8 名)



働くチラシとさぼるチラシとは…

イ) 移動支援交流会の開催

大津市内で移動支援を行っている団体から交流会開催の声があがり交流会を開催した。

令和 2 年度第 1 回移動支援交流会			
開催日時	令和 2 年 6 月 23 日 (火) 14:00~16:00		
開催場所	明日都浜大津ふれあいプラザ 4 階(ホール)		
参加者	16 名	本会の参加者	5 名
内容	1. 開会 2. 自己紹介～お題「わたしの宝物」～ 3. 活動紹介 4. 情報交換 5. 閉会		
		住民だけが頑張るのではなく、 行政に投げかけるだけではなく、 一緒に取り組んでいこう！ (社協もたのむで！)	

③ 生活支援体制整備関係者の連携・協働の仕組みづくり

ア) 生活支援体制整備関係者勉強会

大津市の生活支援体制整備関係者の連携・協働により、本事業の推進を図るために、大津市の生活支援体制整備関係者の勉強会を開催した。

令和2年度生活支援体制整備関係者勉強会	
開催日時	令和2年8月21日(金) 10:00~12:00
開催場所	明日都浜大津ふれあいプラザ4階(視聴覚室)
本会の参加者	8名
内 容	<p>講師：佛教大学教育開発センター 講師 金田 喜弘 先生</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 自己紹介 3. ミニレクチャー ～ワーカーの動きに着目した事例学習～ 4. 事例学習 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 導入 ▶ 事例紹介：住民主体・連携を意識した「真野北学区見守り会議」の進め方 ▶ グループワーク ▶ グループ発表 ▶ フィードバック
	

イ) 生活支援体制整備関係者会議

・市域会議 (5回/年)

大津市の生活支援体制整備事業に係る担当者が連携・協働に向け共感を生みだすワークなどを行った。

参 加 者	長寿政策課 (地域包括ケア推進室)	3名
	あんしん長寿相談所 (社会福祉士)	7名
	本会 (地域支援グループ)	9名

・エリア会議 (1回/月)

本会の第2層生活支援コーディネーターと各あんしん長寿相談所の事業担当者を中心に地域課題の共有や、協議体の設置・運営について検討した。

・コミュニティソーシャルワーカー会議 (1回/月)

本会の第1層生活支援コーディネーターと第2層生活支援コーディネーターが地域課題や事業の進捗状況を共有した。

④ 生活支援体制整備関係者の質の向上

ア) 研修会などへの参加

滋賀県生活支援コーディネーター基礎研修	
開催日時	令和2年12月4日(金)10:00～15:30
開催場所	近江八幡文化会館(小ホール)
本会の参加者	2名
内 容	<p>コーディネーター：松端 克文氏（武庫川女子大学 文学部 教授）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 講義Ⅰ 「生活支援体制整備事業と生活支援コーディネーターの役割について」 /滋賀県医療福祉推進課 在宅医療係 松田 浩明氏 3. 講義Ⅱ 「地域福祉の推進における生活支援コーディネーターの役割」 /武庫川女子大学 文学部 松端 克文教授 4. 事例報告 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「行政と社協が協働して取り組むことの意義」 /東近江市 健康福祉部 福祉総合支援課 森 佳子氏 (2) 「実践から学ぶ生活支援コーディネーターの役割」 /東近江市社会福祉協議会 地域福祉課 中西知史氏 5. 気づきグループワーク 6. 発表 7. ポイントの整理 8. 閉会

令和2年度生活支援コーディネーター学習・情報交換会	
開催日時	令和2年12月11日(金) 13:30～16:30
開催場所	滋賀県立長寿社会福祉センター(第1研修室)
本会の参加者	6名
内 容	<p>講師：松端 克文氏（武庫川女子大学 文学部 教授）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会・趣旨説明 2. コロナ禍でみてきた生活支援コーディネーターの課題と役割 /松端 克文氏（武庫川女子大学 文学部 教授） 3. コロナ禍における生活支援コーディネーターの役割 /西宮市社会福祉協議会 共生のまちづくり課 小藪真彦氏 4. ポイント整理 5. コロナ禍における活動の情報交換 6. まとめ 7. 閉会

イ) 滋賀県生活支援体制整備推進委員会

本会の第1層生活支援コーディネーターが滋賀県生活支援体制整備推進委員として委員会に参画し滋賀県の生活支援体制整備推進を進めている。

滋賀県生活支援体制整備推進委員会		
開催日時	第1回	令和2年10月22日(木)10:30～12:30
	第2回	令和2年12月25日(金)13:30～15:30
	第3回	令和3年3月8日(月)13:30～15:30
開催場所	第1回	オンライン会議(zoom)
	第2回	滋賀県立長寿社会福祉センター(介護実習室)
	第3回	滋賀県立長寿社会福祉センター(介護実習室)

本会の参加者	生活支援体制整備推進委員として1名(第1層生活支援コーディネーター)
内 容	1. 生活支援コーディネーター基礎研修について 2. 生活支援コーディネーター学習・情報交換会について 3. 令和3年度滋賀県生活支援体制整備事業の振り返り

⑤ 退職シニアの参加促進

ア) 「おやじの連絡帳 vol.5」の発行

地域で活動されている男性の姿を記事にし、退職後の男性が活躍できる場が広がることを期待し作成している。

・ 車いすの貸出し事業

緊急の利用や旅行、帰郷などに支障がある人に対し、2カ月間を限度に車いすを貸出した。(無料)

車いすの貸出し事業の利用状況 (件)

	貸出	返却	更新	寄付	合計
令和2年度	86	71	88	2	247

※上記のほか、学区社協では独自に車いすの貸出を実施している。

・ 地域包括支援センター職員派遣事業

大津市の地域包括支援センターに社会福祉士を9名派遣した。

配置場所：和邇1名、堅田2名、比叡2名、中1名、膳所1名、南1名、瀬田1名

・ ふれあい給食事業の推進

一人暮らし高齢者に対し、栄養と健康の増進をはかるとともに、地域との交流を深めるために学区社協が主体となって実施している。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、配食を中止された学区や副食に変更された学区もあり、各学区で工夫を凝らしながら実施された。

1) ふれあい給食サービス事業実施一覧

①実施学区 25学区

(葛川、伊香立、真野北、堅田、仰木、仰木の里、日吉台、坂本、下阪本、唐崎、滋賀、藤尾、長等、逢坂、中央、平野、膳所、富士見、晴嵐、南郷、大石、田上、瀬田、瀬田南、瀬田東)

②利用者(実人数) 1,517名(令和元年度1,564名)

③年間給食数 12,625食(令和元年度16,115食)

2) ふれあい給食サービス事業研修会

日 時 令和2年7月1日(水) 13:30~15:30

場 所 ふれあいプラザ4階ホール

参加者 41名

内 容 ・食品衛生講習会

講師 大津市保健所衛生課 石田 和久 氏

・情報交換会



・ふれあいサロン育成事業

ふれあいサロンのボランティアが出会い情報交換することを目的に例年ふれあいサロン交流会を開催しているが、新型コロナウイルスの影響で中止とした。それに代わり、各サロンのコロナ禍において活動できない思いや活動を行う上での工夫を共有するため、アンケートを実施した。

また、本会に登録されているふれあいサロンに対して、ボランティア行事用保険料の一部助成を通して活動支援を行った。

1) ふれあいサロン登録数 (令和3年3月31日現在)

- ①登録数：197団体
- ②利用者数：約1,300名
- ③ボランティア数：約750名
- ④年間開催総数：1,700回

2) ふれあいサロンボランティア行事用保険助成

- ①助成団体数：46団体
- ②助成金額：163,455円

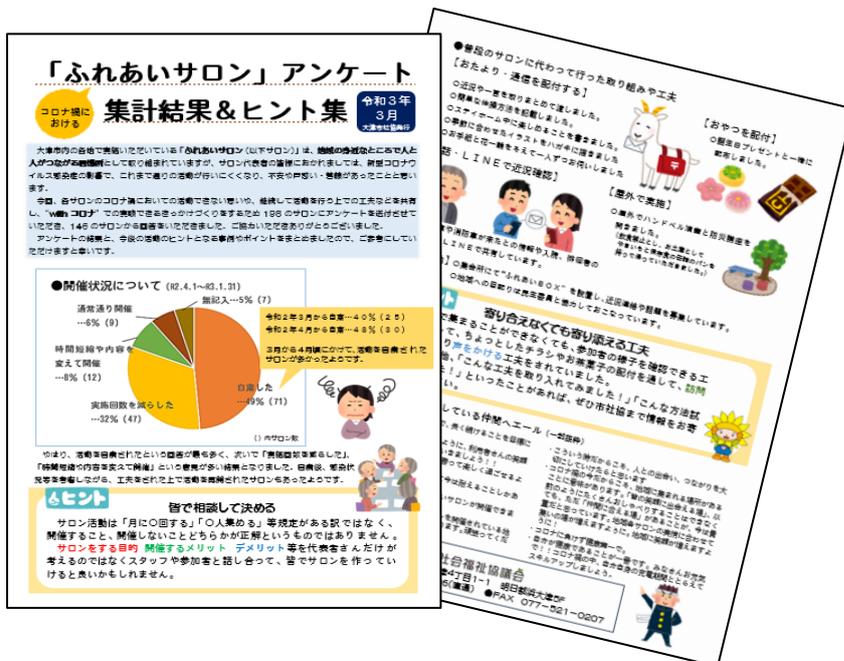
コロナ禍の活動自粛により、助成を辞退された団体もありました。

3) ふれあいサロンアンケート

コロナ禍での各サロンの開催状況や、活動される際の工夫についてアンケートを実施し、活動のヒントとなるよう情報をとりまとめてニュースを発行した。

コロナ禍により、緊急事態宣言を受けて開催を自粛されたサロンが多く、活動再開後も消毒や換気などの対策をされていたり、自粛中は、お便りやお茶菓子を持って個別に訪問されるなど、つながりを絶やさないう工夫されていることが分かった。

回答数：146団体



目標 2) 一人ひとりが生きる力を高めあい支え合える地域コミュニティづくり

(1) 福祉学習の推進

① 新たな福祉学習の開発に努めます		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
個別のニーズに対応したプログラムを提案します。また、子どもの頃から福祉体験ができるよう、福祉教育担当者の情報交換会や社会福祉施設での受け入れについて調整を図ります。	年度当初に前年度福祉体験学習実施校に対してアンケートを実施し、各校の動向の把握に努めた。今年度は福祉学習に関する依頼は38回(27校)あり、コロナ禍により、福祉体験用具の貸出しや講師による講話のみという形がほとんどであった。	福祉学習の更なる充実のため、福祉体験用具の貸出しや講師調整だけでなく、内容の検討の段階から関与できるように、各校に働き掛けていく必要がある。また、福祉学習の対象を学校以外にも広げられるようなメニューを企画する。
② 地域の中で福祉を学べる場を増やします		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
身近な地域で福祉学習ができる機会として、福祉のまちづくり講座を学区社協で開催し、地域の力を活用した福祉学習の場づくりを推進します。	福祉のまちづくり講座については、コロナ禍であったが、19学区で実施された。講師の調整や開催方法についても、学区と相談しながら、対応した。	新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しながらの開催方法について検討し、学区社協が安心して開催できる体制づくりを行う。

主な事業

・福祉教育・体験事業

人権教育や他者理解を進めるため、福祉教育・体験事業をつうじて、学校や団体、企業、地域で行われる講座や体験などの企画の相談、講師の紹介及び調整、体験用具の貸出(下記5種類)など、様々な支援を行った。

1) 福祉体験・企画相談 39件(5件減)

(小学校 24件、中学校 9件、高等学校 1件、専門学校 2件、大学 0件、施設 1件、企業 1件、団体 1件)

感染症予防のため、ほとんどの体験企画が10月以降の実施であった。

2) 体験用機材保有数

- ・車いす …11台
- ・アイマスク …118枚
- ・点字器 …168枚
- ・白杖 …1本
- ・高齢者体験グッズ…20セット



小学校での車いす体験



地域の方にもご協力いただき、楽しく安全に学ぶことができました。

・福祉のまちづくり講座助成事業

学区社協では、安心して暮らし続けることのできる福祉のまちづくりを目指して、各種の講座やつどいが開催された。

実施学区：19 学区（令和元年度 35 学区）

実施講座：34 講座（令和元年度 125 講座）

参加人数：1,470 名（令和元年度 6,783 名）

コロナ禍で中止を余儀なくされる中、それぞれ工夫しながら実施された。

令和2年度 福祉のまちづくり講座 実績報告

学区	回数	日程・概要	参加人数	日程・概要	参加人数	日程・概要	参加人数	日程・概要	参加人数
小松	1	2/27 小松・木戸学区合同研修会 「発達障害を知る」	66						
木戸	2	7/8 福祉委員・民生委員 合同研修会	26	2/27 小松・木戸学区合同研修会 「発達障害を知る」	66				
和邇	2	7/27 災害ボランティアセンター	20	11/20 学区の防災対策	24				
小野	1	2/6 法律相談・介護相談	121						
葛川	1	3/9 健康づくり教室	9						
真野	1	6/19 福祉委員研修会	45						
真野北	1	7/19 福祉委員研修会	32						
堅田	2	6/27 福祉委員研修会	41	10/24 防災研修	37				
仰木	3	7/3 福祉委員研修会	18	11/29 仰木学区防災訓練 「AED講習と防災倉庫点検」	30	2/12 自治連・社協合同研修会 「小学校PTAとの意見交換」	20		
雄琴	2	8/3 夏休み小学生ちよこっと 手作りの会	29	10/13 お寺の住職の講話	16				
日吉台	2	11/21 不眠克服講座	56	12/2 セラバンド体操講座	30				
唐崎	1	2/20 認知症と家族のケア	30						
滋賀	2	7/5 福祉委員研修会	60	2/7 ふれあいサロン交流会	25				
長等	3	7/19 福祉委員・民生委員 合同研修会	73	11/15 ふれあいサロン研修会(ロコモ体操)	40	12/20 寄せ植え講座	32		
中央	2	8/4 福祉委員研修会	50	2/13 フェアトレードについて	30				
平野	2	6/27 福祉委員意見交換会	22	11/29 福祉委員・民生委員合同研 修会	50				
膳所	4	7/26 福祉委員研修会	46	9/27 防災研修	130	10/17 コロナ禍における新しい生活 様式と地域福祉活動	71	1/24 カローリング大会	75
石山	1	1/29 新型コロナウイルス 感染症の正しい理解	30						
瀬田	1	7/18 福祉委員研修会	20						
実施学区計	19						参加人数 合計		1470

・実習生の受け入れ

本会では、社会福祉士のための実習、司法修習生の実習など、様々な実習生を受け入れている。実習生の受け入れを通して、大学等との連携が深まり、職員が日頃の活動や事業の意義を再認識する機会になった。

日 程	学 校	人数
8月3日～9月4日 (24日間)	同志社大学	1
8月3日～9月12日 (8日間)	花園大学	1
10月20日 (1日間)	司法修習生	7
11月2日～12月7日 (23日間)	龍谷大学	2
延べ合計 56日間		11名

・社会福祉大会の開催

社会福祉の向上にご尽力いただいた方々に対して、本会会長より表彰状、感謝状の贈呈を行った。本年は、新型コロナウイルス感染症の影響により式典のみで参加者も表彰者のみで開催した。

- 1) 日 時 令和2年11月11日(水)
- 2) 会 場 大津市役所別館1階 大会議室
- 3) 内 容 ・表彰状及び感謝状の贈呈(個人86名、10団体)

(2) 生きる力を育む場づくり

① 一人ひとりの受援力を高めるとともに、地域で助けあえる関係づくりを進めます		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性等
「自分のことは自分です」という考えが、悩み事を抱えたときには「人に頼ることは恥ずかしい」という要因になってしまい、孤立化にもつながることが考えられます。一人ひとりが自己責任ではなく、普段から「助けて」と言いあえる関係づくりを進めます。	地域で助け合える関係づくりを目指し、地域福祉担い手養成講座を開催した。なかでもテーマを絞り、市内の移動支援を検討・実践するメンバーでの「移動支援交流会」、支え合い活動を行っているメンバーでの「ささえ合い活動情報交換会」を開催し、実践者同士のつながりづくりと活動の拡大につながった。	地域の公共交通機関の路線廃止が広がる中で、地域の多様な主体の連携・協働など新たな仕組みやつながりが必要となっている。地域住民が、住み慣れた地域で自分らしく生活するために、インフォーマルなサービスの開発が必要。
② 地域のニーズにあわせた新しいしくみをつくります		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性等
支えあい、見守りは実際には各地域で行われている取り組みです。それぞれの地域で手助けや気遣いの気運を高め、お互いに地域での生活を支えていけるよう、地域に応じた活動づくりを支援します。	モデル的学区での見守り活動の検討を行い、各関係機関との連携、KJ法を用いて課題の共有、ゲーム感覚で助け合いの意識を高める研修会の開催等とおし、地域自らが見守りの重要性と必要性を感じ、自発的に活動をすすめることができた。	「ふれあい給食事業の在り方検討会」「いのちのバトン推進事業」を通し、地域に応じた見守り活動の推進を促す。

主な事業

・生活支援物資の受け入れと活用

離職や病気療養等で経済的に困窮しておられる方の相談が、年間を通じて多く寄せられており、生活福祉資金等の貸付や生活保護などの公的制度を受けるまでの間、緊急的な支援として食料品を提供している。

この取り組みは、広報「ひまわり」や学区社協や地区民児協を通じて生活支援物資の提供をお願いし、市内の地域住民や企業等からの寄付で成り立っている。皆様から提供いただいた生活支援物資については、生活困窮者自立支援事業と一体的に行い、大津市生活福祉課、地域包括支援センター、NPO法人大津夜まわりの会、子育て支援団体等と連携し、支援の必要な方へ効果的に提供した。

今年度は新型コロナウイルスの影響を受け、生活困窮の相談が多数寄せられているが、コ

ロナの感染予防、特例貸付があったことから支援物資を提供する機会が例年より少なかった。

特例貸付を利用されたひとり親世帯を対象に、生活支援の一環で令和2年12月、令和3年3月に子育て応援フェアを開催した際に生活支援物資の提供を行った。

令和2年度 提供件数 (件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
40	52	39	41	33	52	47	25	31	26	32	90	508

(令和元年度 合計527件)

ご寄附いただいた生活支援物資の内容と量

米	1,858 k g	缶詰	1,897 点
インスタントラーメン	4,700 食	レトルト食品	2,424 食
パスタ・乾麺	236 点	のり・調味料	1,440 点

効果：地域の皆様からご寄附いただいた支援物資の活用によって、相談者の不安が軽減できており、よりスムーズな相談援助ができています。子育て応援フェアではたくさんの支援物資のお礼の言葉をいただいている。

・フードバンク事業の実施

1) フードロス対策と生活困窮者対策を実施。

①フードロス対策

休校に伴う学校給食の食材提供や、レストラン廃業に伴う食材の寄付、災害備蓄品の提供を、フードバンクびわこことの連携で実施。

②生活困窮者対策

学区社協、自治連合会、一般からの寄付で対応。コロナ禍で、生活困窮者は増加しており、特例貸付の利用者などに提供した。

2) 提供方法

原則業者には渡さない、売らないこととし、配布ではなく、必要な人が必要な分だけ取りに来る。また生活困窮者には、原則2回までとし、その後のプランを作成し、専門職として支援。コープしが南草津センターに協力いただき、冷凍室を借用。また、運搬に保冷箱や保冷車を出していただいた。

3) 主な頒布先

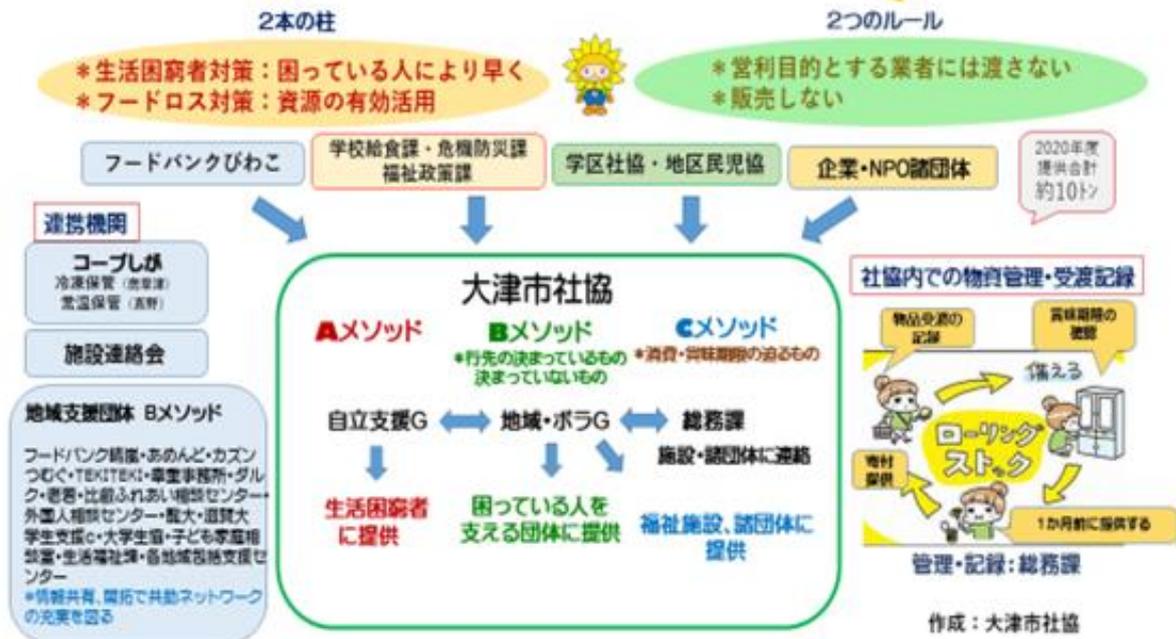
- ①レストラン等の食材約 350 kgは、民間で子どものために活動されている施設に提供。
- ②学校給食食材 5000 kg、災害備蓄品 625 kg、市民 HP322 kgは、高齢者施設、障害者施設、作業所、子ども食堂、保育所、こども園、デイサービス、母子施設、グループホーム等 約 50 か所へ。
- ③フードバンクびわこ寄付等約 4000kg は、困窮家庭や単身子育て世帯に。

4) 各事業所の主な利用法

- ・共働き家庭、貧困家庭の子どもに提供するお弁当食材に。
- ・ひとり親家庭、貧困家庭に提供。
- ・寺子屋参加の子どもの食事提供やお弁当の食材に。
- ・野外活動で、子どもとバーベキューに活用。
- ・利用者の食事に一品追加。
- ・子ども食堂での食材として 等

各施設で有効活用され、利用者の方にも喜んでもらっているという、感謝の声が多く届いている。





・子どもの学習支援事業

① トワイライトステイ

生活が困窮していることや親が病気や障がいを抱えていること等家庭に課題があるため、学校に行きにくく、社会から孤立する子どもたちに対し、夕方から夜の居場所を地域につくり、生活意欲や学習意欲、自己肯定感の向上を図ることを目的とする。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴って幼小中高校が休校になり、支援を必要とする世帯の子どもたちの生活全般に対する不安が広がる中、NPO 法人こどもソーシャルワークセンターでは、実施回数を週 2 回から週 5 回へ拡大して開催された。

年間延べ 393 回実施

参加者：小学生 11 名・中学生 8 名・高校生 1 名 延べ 1,015 名参加

ボランティア：延べ 761 名

ねらい：居場所づくり、学習支援、食の確保、

世代間の交流、ボランティア同士の交流

協力：NPO 法人こどもソーシャルワークセンター

(5ヶ所)、NPO 法人あめんど(2ヶ所)



みんなで食べるおやつ準備

② 寺子屋プロジェクト

長期休暇中等の宿題、学習及び生活学習の支援並びに地域でのつながりや居場所づくりを目的に、地域の子どもの地域で育む地域福祉活動。

実施学区：16 学区社協

木戸・和邇・小野・真野・真野北・雄琴・日吉台・坂本・唐崎・逢坂・石山・南郷・上田上・瀬田・瀬田南・瀬田東

実施時期：長期休暇中、休日等

参加者：延べ1,466名の子どもたち
 ボランティア・スタッフ：延べ770名
 内容：宿題支援、居場所づくり、
 調理実習、スポーツ等

効果：

- ・コロナ禍により子どもたちも遊びに行けない状況が続いたが、寺子屋での活動の中で晴れ晴れとした表情を見ることができた。
- ・最初は戸惑っている様子であったが、次第にスタッフとも打ち解け、学習に真摯に取り組めるようになった。



コロナ対策のため屋外で活動



席間隔を空けながら勉強に取り組む

③フリースペース

フリースペースは、トワイライトステイと同様、しんどさを抱える子どもが安心して過ごせる夜の居場所である。週に1回、福祉施設を活用し、子どもが支援者やボランティアと一緒にご飯を食べたり、お風呂に入ったりして過ごす。コロナ禍により中止せざるを得ない時期もあったが、福祉施設、子どもと専門的に関わるワーカーやボランティアがチームになり、子どもの居場所を地域で作った。

フリースペースカーサ	
実施日時	毎週木曜日 18:00~20:20
参加者	高校生1名・小学生3名
場所	特別養護老人ホーム カーサ月の輪
開始時期	平成27年3月
実施回数	25回



食事の様子

フリースペースかなで	
実施日時	毎週金曜日 17:00~20:00
参加者	中学生1名・小学生1名
場所	小規模多機能型住宅介護事業所 時間の奏
開始時期	平成27年7月
実施回数	41回



百人一首

※フリースペースアイリス・しんせいは、コロナ禍により年間通して中止であった

④子ども食堂

地域ぐるみで子どもを大切にする垣根のない居場所として、食事、学習、遊び等を通して、子どもが安心してだれかとともに過ごすことができる場所を地域の人々の思いと工夫で作っている。コロナ禍により中止を余儀なくされた子ども食堂も多かったが、市内で3カ所が新たにスタートし、大津市社協ではその開設支援を行った。

令和2年度に新設された子ども食堂

No.	学区	子ども食堂名	特徴	実施場所
1	仰木の里	YUMEMURA キッチン	未就園児とその家族を対象にした子ども食堂。母親の育児に関する悩み相談も受けている。	モデルハウス「もりいえ」

2	逢坂	逢坂子ども食堂 SmileDoor	食物アレルギーのある子どもと保護者が安心して参加できる子ども食堂	逢坂市民センター
3	逢坂	逢坂アモーレ 子ども食堂	若い世代や子育て世代の入居も多いマンション内の子ども食堂	マンション内

・アディクションフォーラム実行委員会の運営支援

薬物・ギャンブル・アルコール依存症など様々な依存症（アディクション）を抱えた当事者や家族、関係機関や住民が依存症の理解を深めることを目的としてアディクションフォーラム in 滋賀を毎年開催している。実行委員会は事務局を滋賀県精神保健福祉センターと大津市社会福祉協議会が担い、当事者、家族、関係機関、弁護士、司法書士等専門職が実行委員メンバーとして構成されている。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、オンラインのみの開催となった。

第13回 アディクションフォーラム in 滋賀

仲間を見つけた、希望を見つけた

～「コロナ」やけどなんとか生きてるねん～

日時：令和3年2月6日（土）10時00分～12時00分

会場：オンライン（ZOOM）開催

内容：講演「下手くそやけどなんとか生きてるねん」

講師 渡邊洋次郎氏

参加者：オンライン 68名

実行委員会：12回

・大津市ファミリーサポートセンター

大津市ファミリーサポートセンターは、育児の援助をしてほしい人（おねがい会員）と援助できる人（まかせて会員）が会員となり育児の相互援助活動を行なっている、地域の子育て支援と福祉の向上を目的とし、安心して生活できる環境づくりを応援している。

1) 活動状況について(令和2年度4月～3月)

おねがい会員は、お子さんが小学校を卒業される年度まで、まかせて会員は81歳以上で会員の継続のお尋ねをしている。今年度は、該当会員の退会処理を行ったことで減が多くなった。

会員数

	令和2年度 3月末会員数	年度内入退会		
		入会	退会	増減
おねがい会員	1,414人	78人	273人	-195人
まかせて会員	419人	21人	22人	-1人
どっちも会員	347人	11人	9人	2人
合計	2,180人	108人	304人	-194人

		依頼者側		援助者側			
		おねがい会員	どっちも会員	まかせて会員			
会員の 状況	(区分)						
	対象者数	1,414人	347人	419人			
	年齢分布	～30代	35%	～30代	21%	～40代	15%
		40代	56%	40代	53%	50代	30%
他		9%	他	26%	60代～	55%	

子ども年齢別活動集計

年 齢	0 歳～2 歳	3 歳～5 歳	6 歳～12 歳	13 歳以上	合 計
件 数	82 (3%)	442 (15%)	1,588 (52%)	920 (30%)	3,032 件

活動内容・件数

(件)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
保育所・幼稚園の登園前の預かり					4						1		5
保育所・幼稚園の送り	44	28	38	42	45	36	48	57	45	53	39	52	527
保育所・幼稚園の迎え	19	20	50	58	52	65	85	93	100	84	84	93	803
保育所・幼稚園の帰宅後の預かり		1	5	13	19	14	21	21	16	15	17	20	162
児童の登校前の預かり	4	1	16	16	4	15	19	14	15	12	12	12	140
児童の学校等の送り	14	4	72	61	23	66	74	69	73	60	64	60	640
児童の学校終了後の迎え	3		41	12	2	4	6	5	6	5	12		96
児童の学校終了後の預かり			4	6	3	5	5		2			2	27
児童クラブの迎え	5		26	27	25	31	34	36	22	28	19	23	276
児童クラブ終了後の預かり	5		2			2	4	3	2	3	3	4	28
子どもの習い事等の場合の援助	6		12	28	26	30	33	36	40	43	34	32	320
保育所・学校等休みの時の援助	12	1		1	10			1	1	3		2	31
保育所等施設入所前の援助						2							2
保護者等の短時間・臨時的就労の場合の援助	12	6	7	7	10	9	8	12	10	12	9	27	129
保護者等の求職活動中の援助				2				1		1	2		6
他の子どもの用事の場合の援助	2			1	2	2	4	4	1	1			17
保護者等の外出の場合の援助	5	2		2	8		4	3	4	3	1	2	34
保護者等の病気、その他急用の場合の援助	2			1								2	5
保護者在宅時の援助	30	26	30	30	43	36	30	32	31	25	23	40	376
その他				1	1								2
合 計	163	89	303	308	277	317	375	387	368	348	320	371	3,626

内 訳	保育所・幼稚園にかかわる援助	小学校・児童クラブにかかわる援助	そ の 他
	1,497 件 (41.3%)	1,207 件 (33.3%)	922 件 (25.4%)

※活動状況について

- ・令和2年度の活動件数は3,626件で、前年度より2,491件の減となった。コロナ禍で、保護者が在宅勤務・校園が休校、休園・習い事が休みなどの理由で送迎援助や預かりが必要なくなり、従来の依頼が大きく減る結果となった。
- ・“母が在宅時の育児援助”の依頼が増えている。乳児の育児の手助け、家事の間の見守り、兄弟のサポートなど、周りに頼る方がなく、一人での育児のしんどさや育児不安・社会不安を抱えることで、利用されるケースが増えている。

ブロック別・学区別 会員数と活動状況

ブロック	学区	会員数				依頼状況	
		おねがい	まかせて	どっちも	計	依頼件数	依頼実人数
志賀	小松	3	2	1	6	216	1
	木戸	14	3	1	18	88	1
	和邇	20	3	5	22	4	2
	小野	12	1	2	15	14	2
	小計	49	9	9	61	322	6
北部	葛川	0	0	0	0	0	0
	伊香立	4	1	3	8	0	0
	真野北	5	5	3	13	0	0
	真野	22	5	5	32	5	1
	堅田	41	15	13	69	400	4
	仰木	2	2	0	4	0	0
	仰木の里	44	24	13	81	86	3
	小計	118	52	37	207	491	8
比叡	雄琴	17	6	6	29	0	0
	日吉台	5	8	1	14	0	0
	坂本	23	10	9	42	367	4
	下阪本	36	8	11	55	178	3
	唐崎	55	21	14	90	7	2
	小計	136	53	41	230	552	9
中部	滋賀	74	21	25	120	54	6
	山中比叡平	7	5	6	18	0	0
	長等	74	19	17	110	182	5
	藤尾	11	7	2	20	0	0
	逢坂	65	16	12	93	560	6
	中央	78	12	12	102	218	11
	小計	309	80	74	463	1,014	28
中南部	平野	158	52	51	261	403	13
	膳所	69	26	16	111	229	7
	晴嵐	105	32	13	150	214	6
	富士見	38	12	5	55	159	1
	小計	370	122	85	577	1,005	27
南部	石山	26	6	9	41	1	2
	南郷	15	17	7	39	0	0
	大石	98	4	0	12	0	0
	田上	14	7	5	26	0	1
	小計	63	34	21	118	1	3
東部	上田上	2	1	1	4	0	0
	青山	69	14	23	106	147	3
	瀬田	90	10	23	123	12	5
	瀬田南	67	13	11	91	28	2
	瀬田北	75	15	13	103	22	5
	瀬田東	72	16	9	97	0	1
	小計	375	69	80	524	209	16
合計		1,414	419	347	2,180	3,594	97

(人) (件) (人)

ブロック、学区別の会員数・依頼状況は、ファミリーサポートセンターの対象となる子ども(0~18歳)が多い地域、また継続して依頼される会員の人数や利用回数により、件数が増加する。

2) 講習会・交流会

新型コロナの感染拡大防止の観点で、講習会・交流会は中止とした。

活動中の援助会員に、『子どもの事故防止安心マニュアル』を配布し、発達別の事故防止や住環境のチェック、応急手当の方法など、安全に対する意識を高める機会にももらった。

3) まかせて会員の登録増をめざして

「ファミリーサポートセンター」を広く市民に周知すると共に、まかせて（援助）会員の増員を目的に、広報おおつで会員募集のお知らせを掲載した。また、お知り合いの方の紹介を呼びかけた。

広報おおつを見ての問い合わせや、紹介で登録される方もあり、ファミリーサポートセンターの存在の周知や、地域での繋がりが少しずつ広がっていることを感じる。

4) ファミサポ通信の発行

年2回（38号・39号）発行した。

読みやすい通信をめざし、内容の工夫を行った。今年度は、交流会ができなかったこともあり、親子で楽しんでもらえるよう、クイズやおすすめ絵本の紹介を掲載した。

また、コロナ禍のサポートでの注意点、配慮点をお知らせすることで、少しでも安心して活動してもらえるようにした。



5) その他

①援助活動における自家用車の使用について

平成27年9月より、援助会員の自家用車を使用しての活動を規程に基づき開始する。

家から保育園が遠い、習い事の場所が離れているなどで、車でないとサポートできない場合に、安全面に十分配慮し、双方で誓約書を取り交わすことで使用は認めている。

タクシー替わりの使用はしないことを原則としている。

②大津市社会福祉大会にて感謝状贈呈

ファミリーサポートセンター援助会員として、長年、活動いただいた会員に「大津市社会福祉協議会会長感謝状」を贈呈した。援助会員あって成り立っている活動であることに改めて感謝している。令和2年度は1名に贈呈した。

・ 追悼事業

1) 無縁墓地、旧大津陸軍墓地の法要

無縁仏ならびに旧陸軍墓地に埋葬納骨されている諸英霊の冥福を祈るため総合法要を実施した。(巡回法要は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から取り止めとした。)

日 時 令和2年8月28日(金)
 巡回法要 取り止め
 総合法要 西福寺(大津市春日町6-10)
 導師 西福寺 黒川 上人(総合法要、旧陸軍墓地)
 幻案寺 増本 俊幸 上人(総合法要)

2) 功労者顕彰碑法要

本会に功績があり、故人となられた方に対して感謝の意を表する「功労者顕彰碑」前において追悼法要を実施した。

日 時 令和2年8月28日(金)
 場 所 西福寺(大津市春日町6-10)
 導師 西福寺 黒川 英正 上人

(3) 小地域における福祉のまちづくりの基盤強化

① 学区社協の運営と活動への支援を行います

概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
学区社協において、地域のニーズを地域で考え、課題を解決していくことができるよう、学区社協地域福祉活動計画の作成及びそれに基づく活動を支援するなど、地域福祉活動の基盤づくりを行います。	学区地域福祉活動計画(学区社協の手引き)の作成支援を通じて、学区社協の活動が充実するように支援した。また、コロナ禍において地域福祉活動を継続するためのマニュアルや活動事例を示して、地域福祉活動の落ち込みを防いだ。	学区社協のほか各種地域団体とも連携を深めながら、withコロナ時代の新たな地域福祉活動を創出する。

② 福祉委員の役割の明確化を図ります

概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
福祉委員は身近な地域でのサロン活動や見守り・声かけ、支えあい活動の中心となり、自治会と学区社協とのつなぎ役を担っています。今後も福祉委員の役割や位置づけ、民生委員児童委員との関係を明確にするとともに、あり方について検討を行います。	各学区から主体的に活動に参画する福祉委員が選出されることを目指し、学区社協会長役員会で福祉委員のあり方・役割を改めて検討した。自治会から提出していただく福祉委員報告書の様式を変更し、市自治連合会定例会で案内した。	学区社協や各種地域団体と連携し、福祉委員の活躍の場づくりを行う。また、福祉委員報告書の様式変更に合わせて『福祉委員の手引き』の改訂を行う。



主な事業

・民生委員児童委員の活動支援

市内 36 地区の民生委員児童委員協議会連合会の事務局として、民生委員児童委員を対象とした相談活動セミナーや民生委員児童委員活動を支援した。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、会長会理事会、各種部会、人権研修、民生委員大会等の一部を中止せざるを得なかった。

- ・役員会(毎月)
- ・定例の会長会、理事会(毎月)
- ・民生委員大会、総会、研修会、OB会(湖風会)
- ・各専門部会(高齢者部会、児童部会、生活支援部会、障害者部会、主任児童委員部会、広報部会)

・学区社協活動の運営の支援

1) 定例学区社会福祉協議会会長会議

学区社協では、地域の福祉活動を進め、実践や体験をとおして住民福祉の向上のため様々な取り組みを実施している。そこで、本会の活動方針の伝達や福祉情報の提供、さらには学区相互の交流をはかるとともに、福祉問題について協議することを重点に学区社協会長会議を開催した。コロナ禍でやむを得ず中止した月もあったが、会場のレイアウト変更等の工夫を施しながら実施した。

学区社協会長会議の日程

月	種 類	開 催 日	場 所
4	定 例	文書送付(コロナ禍)	
5	定 例	文書送付(コロナ禍)	
6	事務局長合同→会長のみに変更	6月18日(木)14:30～	ホール
7	定 例	7月16日(木)14:00～	ホール
9	定 例	9月17日(木)14:00～	ホール
10	定 例	10月15日(木)14:00～	ホール
11	文 書	文書送付	
1	定 例	文書送付(コロナ禍)	
2	文 書	文書送付	
3	事務局長合同→会長のみに変更	3月18日(木)14:00～	ホール

2) 学区社協会長会役員会

平成 29 年度に会則を定め、学区社会福祉協議会会長会に関する運営事項等を定め、ブロック毎に 7 名選出し、会長 1 名、副会長 6 名を 5 月の学区社協会長会にて選任(書面評決)した。

	氏名	ブロック	学区
会 長	井上 俊生	北 部	真 野
副会長	猪飼 忠司	志 賀	木 戸
副会長	大窪 功真	比 叡	坂 本
副会長	山本 雅之	中 部	中 央
副会長	岡本 紘忠	中南部	晴 嵐
副会長	瀬古 建一	南 部	石 山
副会長	安土 吉昌	東 部	瀬田南

・ブロックごとの社協連絡会の実施

ブロック別学区会長・事務局長連絡会議の開催

隣接学区の社協が、お互いに情報交換をすすめながら、全市的に統一された組織活動へと発展するために、市内を7ブロックに分け、ブロック別に会長・事務局長の定例的な連絡会や各種の講座・研修会を実施した。

ブロック社協代表学区会長名簿（敬称略）

ブロック名	代表学区社協	会 長
志賀ブロック	木戸学区	猪飼 忠司
北部ブロック	真野学区	井上 俊生
比叡ブロック	坂本学区	大窪 功真
中部ブロック	中央学区	山本 雅之
中南部ブロック	膳所学区	吉村 哲
南部ブロック	石山学区	瀬古 建一
東部ブロック	瀬田南学区	安土 吉昌

志賀ブロック社協連絡会（平成18年8月スタート）4学区社協

テーマ：地域福祉の充実～つながろう志賀の福祉のまちづくり～
（小松、木戸、和邇、小野：事務局→木戸学区）

回	日時	場所	特記議題内容
1	6月2日（火）10：00	木戸支所	事業報告・決算／事業計画・予算について 共同募金街頭募金について 福祉施設との勉強会、懇談会について
2	10月13日（火）15：00	和邇公民館	歳末たすけあい募金封筒について 学区社協手引きの作成について
3	3月2日（火）10：00	木戸支所	来年度事業について 情報交換

※第8回志賀健康いきいき祭は、令和2年11月7日（土）に開催予定をしていたが、コロナ禍で中止。

※ブロックふれあいサロン交流会は、コロナ禍で中止。

学区社協と福祉施設の勉強会・懇談会

日 時 令和2年12月18日（金）10：00～

会 場 木戸公民館

参加者 学区社協7名、福祉施設7名、和邇包括1名

内 容 ・移動にかかる課題と新たな取り組みについて
・コロナ禍の活動や対応について情報交換



北部ブロック社協連絡会（昭和42年4月スタート）7学区社協

テーマ：「小地域における福祉活動の活性化」

～つなぐ、つながる、広がるふれあいの地域づくり～

（葛川、伊香立、真野、真野北、堅田、仰木、仰木の里：事務局→真野学区）

回	日 時	場 所	特記議題内容
1	5月13日（水）10：30～	真野市民センター	令和元年度事業報告・決算報告 令和2年度予算・事業計画 総会文書審議について
2	10月8日（水）10：00～	真野市民センター	令和2年度事業について 堅田あんしん長寿相談所・真野あんしん長寿相談所からの情報提供 情報交換

3	3月25日(木)13:30～	真野市民センター	令和3年度事業について 消毒セットの購入について いのちのバトン事業について 情報交換
---	----------------	----------	------------------------------------------------------



地域福祉講座

日時 令和2年11月21日(土)7:40～17:00
 内容 1部 「認知症について」講座と運動
 講師 理学療法士 轟 紘子 氏
 2部 「歌あそび」「歌の力」
 講師 音楽療法士 尾木 八重子 氏
 参加者 46名



※北部ブロックふれあいサロン交流会、視察研修会ともにコロナ禍により中止。

比叡ブロック社協連絡会 (平成12年4月スタート) 5学区社協

テーマ:「やさしさと笑顔でつながる福祉の輪」
 (雄琴、日吉台、坂本、下阪本、唐崎 : 事務局 → 坂本学区)

回	日時	場所	特記議題内容
1	7月20日(月)14:00～	坂本市民センター	決算、予算、計画、テーマ、情報交換
2	11月12日(木)16:00～	坂本市民センター	福祉施設からの情報提供 比叡あんしん長寿相談所からの情報提供 情報交換
3	3月4日(木)14:00～	坂本市民センター	コロナ禍における社協活動に関する情報交換 令和3年度の学区社協事業計画に関する情報交換

※比叡ブロック社協「先進地視察研修会」はコロナ禍で中止。

※比叡ブロック社協「地域福祉交流研修会」はコロナ禍で中止。

中部ブロック社協連絡会 (平成12年4月スタート) 6学区社協

テーマ: コロナ禍における社協活動を考える
 (滋賀・山中比叡平・藤尾・長等・逢坂・中央 : 事務局→中央学区)

回	日時	場所	議題内容
1	6月18日(木)16:00～	明日都浜大津 視聴覚室	令和元年度事業報告・決算報告 年間テーマ、予算・事業計画
2	9月2日(水)10:00～	明日都浜大津 視聴覚室	ブロック事業について
3	3月3日(水)10:00～	明日都浜大津 視聴覚室	仮決算について コロナ禍における社協活動について

※先進地視察研修会、地域福祉講座ともにコロナ禍により中止。

中南部ブロック社協連絡会（平成 13 年 4 月スタート）4 学区社協

テーマ：ふれあい、つながり、輪になって、笑顔で育つまちづくり
 （平野、膳所、富士見、晴嵐：事務局→晴嵐学区）

回	日 時	場 所	議 題 内 容
1	7 月 28 日(火)15:30～	膳所市民センター 1階 第1・2会議室	R元年 事業報告・決算報告について R2年 事業計画・予算(案)について 各学区情報交換
2	12 月 2 日(水)10:00～	晴嵐市民センター 2階 第3・4会議室	テーマ ・コロナ禍における学区社協活動と 地域課題の共有 ・令和2年度事業について

※中南部ブロック 先進地視察研修会は、コロナ禍で中止。

南部ブロック社協連絡会（平成 12 年 4 月スタート）4 学区社協

テーマ：地域力を生かし支えあう福祉のまちづくり
 （石山、南郷、大石、田上：事務局→石山学区）

回	日 時	場 所	議題内容
1	7 月 8 日(水)	石山市民センター	事業報告、事業計画、活動テーマ決定
2	11 月 16 日(月)	大平会館	情報共有、意見交換
3	3 月 18 日(木)	ふれあいプラザ	令和2年度振り返り、決算報告

南部ブロック 研修

日 時 令和2年11月18日(月)
 講 師 大津市災害ボランティアセンター
 丸山忠司センター長

参加者 14名

内 容 テーマ：災害ボランティアセンターを知る
 ・令和2年度7月豪雨の大雨特別警報について
 ・避難勧告等に関するガイドラインについて
 ・南海トラフ地震について
 ・学区毎の危険個所や防災上の特性について
 ・平成24年8月大津市南部豪雨災害について
 ・大津市災害ボランティアセンターの設置・運営
 について



東部ブロック社協連絡会（平成 12 年 4 月スタート）6 学区社協

テーマ：「子どもから高齢者まで安心して暮らせるまちづくりをめざして」
 （上田上、青山、瀬田、瀬田北、瀬田南、瀬田東：事務局→瀬田南学区）

回	日 時	場 所	特記議題内容
1	7 月 18 日(土)13:30～	瀬田市民センター	令和元年度事業報告・決算報告 令和2年度予算・事業計画
2	3 月 18 日(木)15:30～	明日都浜大津 4階ホール	令和2年度決算 情報交換

※先進地視察研修会は、コロナ禍で中止。

※サロン交流会は、コロナ禍で中止。

・学区社協追悼助成事業

戦争により戦死をされた方への英霊供養及び戦争の悲惨さ、平和の尊さを次の世代に正しく伝えるため、地域で行う戦没者追悼事業を実施する学区社協に対して助成金を交付した。

事業を実施した学区一覧

学区名		実施場所
1	伊香立	伊香立環境交流館
2	真野	神田神社
3	堅田	満月寺（浮御堂）
4	仰木	仰木忠魂碑前
5	中央	乗念寺
6	田上	田上忠魂碑前
7	瀬田北	東光寺
	瀬田東	

（４） 災害時にも強い支援体制づくり

① 常設災害ボランティアセンターの充実を図ります		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
非常時の被災者支援活動を円滑に進めるため、平常時から各種団体との連携を強化するとともに、ネットワークを構築し、調査・研究、訓練を継続的に行うなど、非常時にセンターの機能が速やかに発揮できるよう取り組みます。	3月に現地サテライト設置訓練を和邇学区で実施する準備を進めていたが、コロナ禍のため、次年度に延期となった。災害ボランティア事前登録者については、積極的に啓発を行ったこともあり、前年度よりも個人、団体とも増えている。電気自動車を活用した非常電源の確保訓練を定期的実施し、投光器等の必要備品の動作確認を行った。	現地サテライト設置訓練については、次年度膳所と和邇の2学区で実施予定。災害ボランティア事前登録についても、啓発を継続して行っていくとともに、登録者へのアフターフォローを行っていく必要がある。

② 地域の力を活かした災害時の体制づくりに努めます		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
大学や企業、福祉施設等との連携を図り、人材や知識、情報などの資源を活用し、安全で安心して暮らすことができる災害に強いまちづくりを目指します。	コロナ禍で福祉施設や大学との連携が難しい中、地域や企業に対し防災出前講座を実施した（14回）。また、事前登録者である企業や団体、個人に対し、養成講座を企画し、多くの参加希望者があったものの、コロナ禍により中止せざるを得なかった。	出前講座により地域、企業、福祉施設など防災意識の醸成を目指す。事前登録者を育成し、有事の人的確保につなげる。学区ごとにサテライト訓練を行い、災害に強いまちづくりを進める。

主な事業

・大津市災害ボランティアセンター（被災者生活支援センター）

毎年繰り返される大規模・広域的な災害に対応するため、常設型大津市災害ボランティアセンターでは、平常時の取り組みでは災害ボランティア活動やセンター設置・運営する人材育成に力点を置き、災害ボランティア事前登録者の更なる確保、大津市総合防災訓練では災害ボラ

ンティアセンター設置運営訓練を大津市福祉政策課、学区社会福祉協議会、地区民生委員児童委員協議会などの関係機関と緊密な連携のもと実施するとともに、大津市社協災害対応ガイドラインに基づく職員情報伝達・安否確認訓練を定期的実施した。

更に、災害ボランティア事前登録者を対象に「災害ボランティア養成講座」や「災害ボランティア事前登録者スキルアップ研修」を開催して最新防災情報の提供や大津市社協事業のPR活動に努める計画であったが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、中止となった。防災出前講座は、年度後半に14回開催できた。

被災市町の災害ボランティアセンター支援に伴う職員派遣は、令和2年度は実施なしであった。また、令和2年度より、水害時の復旧活動に有効なぞうきんを作り備蓄する取り組みとして、「大津市社協ちくちくプロジェクト」を設立し、活動を実施した。「大津市社協ちくちくプロジェクト」により、災害ボランティアセンターの周知を図るとともに、災害に備える助け合い活動への参加によって、防災意識の向上を図った。

1) 災害ボランティア事前登録制度の推進

災害時のボランティア活動が迅速かつ効果的に行なえるように、災害ボランティア活動を希望する個人又は団体の事前登録を推進した。また、事前登録者に対して、災ボラ通信を送付した。

- ・令和3年度3月末現在の事前登録者数 317名（個人：55名 団体：6団体262名）
※令和2年度3月末 312名（個人：56名 団体：4団体256名）

さらに、災害時の支援を迅速・的確に進めるため、災害ボランティア活動に対する一定の知識と技量を高めることを目的として、事前登録者を対象とした下記の講座を企画したが、中止となった。

- ・令和2年度災害ボランティア養成講座（3回を1シリーズ）
- ・令和2年度災害ボランティア事前登録者スキルアップ研修

2) 大津市総合防災訓練において災害ボランティアセンター設置・運営訓練を企画

例年各学区持ち回りで開催される大津市総合防災訓練で、災害時を想定した災害ボランティアセンターの開設・運営訓練を実施することにより、①災害対応ガイドライン・運営マニュアルの検証、②関係機関と協働した災害ボランティアセンターの運営、③職員のスキルアップの3つを目的に計画を進めていたが、コロナ禍で中止となった。

日 時 令和2年9月15日（日）7：00～12：00

場 所 田上小学校

3) 災害支援

本会では、常設型の災害ボランティアセンターとして、滋賀県社会福祉協議会からの派遣要請に伴い、職員派遣を行っているが、令和2年度は要請がなかった。派遣職員については、災害ボランティアセンターの運営支援を通じて、被災地の社協活動を応援するものであるが、地元住民や地元社協職員の思いに寄り添いながら支援している。

また、これまでの職員派遣経験を通じて、今後検討していく課題は以下のとおりです。

- ①現地サテライト開設に伴う人材確保および早期の被災者ニーズの聞き取り把握
- ②災害ボランティアの確保（特に平日）や資機材の整備と活用
- ③本会の停電対策、業務の優先順位、災害ボランティアセンターの費用の確保
- ④行政(市福祉部局)との連携強化

今後は、上記の内容を踏まえて、大津市社協災害対応ガイドライン・本部運営及び現地拠点運営マニュアルの見直しや体制整備につなげる。

4) 防災出前講座の実施

本会職員が講師となり学区社協や民児協をはじめ、地域の各種団体、施設などへ伺い、最新の防災情報、大津市災害ボランティアセンターの活動内容、本会の事業等を啓発することで、地域福祉の推進や各々の防災対策の一助となることを目的に防災出前講座を実施した。

令和2年度防災出前講座の回数 14回 (新型コロナウイルス関連中止3回)

参加者数 549名

	講座テーマ・内容	実施日	参加人数	申込者	担当者
1	第1回和邇学区合同防災研修会	7月27日	22	和邇学区社協	丸山井ノ口
2	膳所学区合同福祉講座「もしもこの地に災害が起きたら」	9月27日	127	膳所学区社協	丸山坂下
3	青山地区民児協防災研修会「地域防災活動について」	10月12日	15	青山民児協	丸山古澤
4	堅田学区合同防災研修会「災害に備えて」	10月24日	50	堅田学区社協	丸山大岡
5	伊香立学区合同防災研修会(DIG訓練も実施)	11月10日	30	伊香立地区民児協	丸山大岡
6	緊急通報を受けた時の対応について(応急手当・119番通報訓練)	11月12日	27	唐崎地区民児協	丸山大岡
7	南部ブロック社協合同研修「災害ボランティアセンターを知る」	11月16日	14	南部ブロック社協	丸山森野橘
8	第2回和邇学区合同防災研修会	11月20日	40	和邇学区社協	丸山井ノ口
9	大津ロータリークラブ例会	11月24日	120	大津ロータリークラブ	丸山山口
10	災害時の備え、災害時の行動など	11月25日	24	瀬田北地区民児協	丸山大岡
11	瀬田南地区民児協防災研修会	11月30日	30	瀬田南地区民児協	丸山伊地知
12	民生委員防災研修	12月9日	23	坂本地区民児協	丸山大岡
13	螢谷自治会文化部主催「我が町 螢谷の防災は？」	12月12日	20	螢谷自治会文化部	丸山大岡
14	第3回和邇学区合同防災研修会	12月23日	7	和邇学区社協役員	丸山井ノ口

549名

5) 職員の安否確認訓練などの実施

組織体制の変更や職員の増加などで、大津市災害ボランティアセンター(被災者生活支援センター)・大津市社協災害対応ガイドラインに明記している「災害警戒職員配備体制(発災時)」の一部修正を行い、緊急時に災害警戒職員配備体制が機能するか検証するため、地震災害を想定した職員安否確認訓練を実施した。

回数	日 時
1日目	6月13日(土)
2日目	9月1日(火)
3日目	3月11日(木)

6) 「大津市社協ちくちくプロジェクト」の設立

全国で複数の災害ボランティアセンターが、水害時の復旧活動に有効なぞうきんを作り備蓄する取り組みを行っており、被災地へ寄付して大変喜ばれている。

大津市災害ボランティアセンターにおいても、同様の活動に日頃から取り組み、いざというときに役立てるため、「大津市社協ちくちくプロジェクト」を設立し、活動を実施した。

「大津市社協ちくちくプロジェクト」により、災害ボランティアセンターの周知を図るとともに、災害に備える助け合い活動への参加によって、防災意識の向上を図った。令和2年度はぞうきん209枚、タオル50枚の提供があった。

7) 災害復興基金

市内外において発生した地震、豪雨等による災害時又は災害復興支援に伴う経費及び防災のための経費に充てる財源として積み立てしている。

災害復興基金額 18,910,725円（令和3年3月末現在）

8) 日本防災士会滋賀県支部の支援

災害時のボランティアセンター運営にあたり、コーディネーターや災害ボランティアの協力が必要です。当支部には、防災に関する知識を有する方が多数在籍され、災害時にはボランティアセンターの運営に多大な協力を得られるものです。平常時には、本会の災害対応ガイドラインや災害ボランティアセンター運営マニュアルにも助言をいただき防災出前講座の資料提供など、相互に支援を進めた。

・災害時助け合いネットワーク事業にかかる市との協働

1) 災害時助け合いネットワーク事業

災害時のためのネットワークの充実を図るため、日ごろの地域見守り活動の一環として、民生委員児童委員によるネットワーク台帳の推進に取り組んだ。

ネットワーク台帳登録数 令和3年3月31日現在 (件)

実人数	対象区分							
	寝たきり	認知症	独居	高齢者のみ	昼間独居	障がい	要支援	他
20,888	309	722	6,451	9,221	1,300	2,469	1,236	2,643

・南三陸町社協との相互応援協定

10月8日宮城県南三陸町から佐藤仁町長が来会され、東日本大震災からの復興支援に協力した本会へ感謝状と盾を贈呈していただいた。

佐藤町長からは「10年間の震災復興計画がほぼ完遂した。ご支援をいただいたみなさまのおかげで今の南三陸町の姿がある。復興支援に多大なご協力をいただき心より感謝する。」と町の復興に対する謝意を述べられた。

本会と南三陸町社会福祉協議会では、令和2年4月1日から災害時相互応援協定を締結し、相互に支援を継続していくこととしている。



・募金型自動販売機の設置

1) 募金型自動販売機の設置

地域福祉活動の財源の一部として活用した。

本会広報ひまわりを掲示し、広報活動としても活用した。

2) 企業の協力による新たな自動販売機の設置

災害ボランティアセンターの事前団体登録をいただいている、(株)大津衛生社の社屋内に3台の募金型自動販売機を設置いただき、日頃から地域福祉活動への協力を得た。

3) 募金型自動販売機の設置状況

No.	設置場所	詳細
1	明日都浜大津3階	プロムナード入り口
2	市役所新館2階	新館2階の総合防災課前
3	木戸支所	市民センター内自販機コーナー
4	木戸老人福祉センター	木戸老人福祉センター広間
5	明日都浜大津2階	2階ガス灯広場
6	瀬田北支所	市民センター前植え込み付近
7	瀬田東支所	市民センター右手植え込み付近
8	堅田駅前	堅田駅前駐輪場
9	滋賀支所	市民センター駐車場側
10	大津聖苑	待合ロビー付近
11	大津市葬祭センター	センター出入口付近
12	志賀聖苑	待合ロビー付近
13	志賀葬祭センター	センター出入口付近
14-16	(株)大津衛生社	会社設置の自販機により支援

※晴嵐支所設置の自販機はR2.10に撤去。

目標3) 新しい参加とつながりを生み出すしくみづくり

(1) ボランティアやNPO活動の推進

① 市社協ボランティアセンターの機能の充実に努めます

概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性等
多様化するボランティアニーズに対応するため、幅広い視点や連携のもと、相談援助機能の充実やボランティアリーダーの育成など、ボランティアセンターの機能強化を図ります。	ボランティア活動のけん引役を育てるために、ボランティアコーディネーション力検定3級の受験費用の一部を助成しており、2名が受験し合格された。例年、ボランティアリーダー養成を兼ねてボランティア交流会を開催しているが、コロナ禍のため中止となった。	各グループの状況を把握しながら、zoom活用の研修を行い、オンラインの活用を進める。

② ボランティアやNPOとの連携の場をつくります

概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性等
地域で展開される活動は、人や団体がつながっていくほか、「思いがけない活動」や「楽しい活動」に発展していくことが期待できます。今後も、地域で活動している人や団体が活動を通じて多様な「つながり」をつくることのできるよう、連携・交流の場づくりを推進します。	ボランティアカフェで「猫のボランティア活動」をテーマに実施したところ、既に保護・譲渡活動をされている方や、行政と連携して地域猫活動をされている方など、定員を超える申し込みと参加があった。新しいつながりを大切にし、要支援者への支援に繋げていく。子ども支援活動（子ども食堂、トワイライト等）の事業推進のためNPO団体と連携を行った。	中間支援組織・機関との連携を進める。（他分野の活動との連携） 子どもの支援事業の安定した財源確保を目指す。

・ボランティアセンター運営事業

(1) 新型コロナウイルス感染症対策

1) ボランティア活動室の利用

- ・利用の都度、テーブル等の消毒と利用者の記録（氏名・体温等）をとった。
- ・前期には、滋賀県の「警戒ステージ」時点で、利用の自粛要請を行った。

2) コロナなんかには負けないゾウ!

① 手づくりマスクで福祉施設の職員さんを応援しよう

- ・コロナ対策で奮闘されている福祉施設（施設連絡会会員）の職員を対象に、手づくりマスクに応援メッセージを付けて贈ることをホームページで市民に呼び掛けるとともに、登録グループへも協力を呼び掛けた。

マスク寄付数 2,199枚
延べ協力者数 100件（個人・団体）



②コロナ禍でのボランティア活動実施状況アンケート

対象数：180 グループ

回答数：103 グループ

アンケートの集計結果は、大津市ボランティアセンターニュース令和3年3月1日号にて報告した。

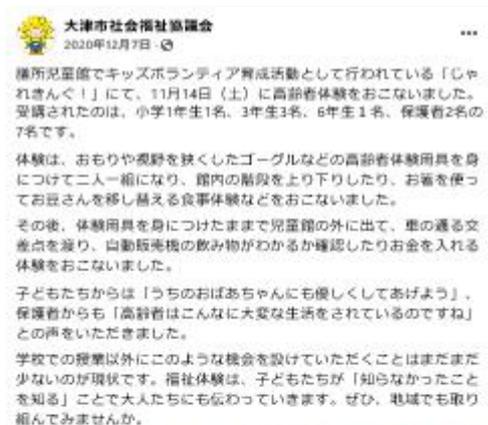
(2) 啓発事業

ボランティアを発掘・育成するために、様々な広報媒体を利用して活動紹介等を行い、市内のボランティア活動を紹介することでボランティアに関する情報を広く市民に提供した。

- ・紙媒体…社協ニュースひまわりにボランティア活動を紹介する記事を掲載した。
- ・WEBの活用…市社協ホームページや、フェイスブック、twitterを活用して、ボランティア活動への参加を呼びかけた。



社協ニュースひまわり No.159号
(令和2年2月15日発行)



Facebook 令和2年11月14日
膳所児童館での高齢者体験

(3) 発掘・登録・育成事業

1) ボランティア登録と検索サイト「おおつボランティア情報」

- ・ボランティア活動希望者へ登録しているボランティアグループの活動状況やボランティア募集状況を提供し、関心を持つ市民が情報を検索して参加できるよう、情報検索サイト「おおつボランティア情報」を市社協ホームページにて運用した。
- また、イベントの際に楽器演奏等のボランティアを求めている福祉施設や地域団体へ出張ボランティアを検索できる旨を紹介した。

グループ登録数 181 グループ

2) 大津市ボランティアセンターニュース 3月1日号の発行

- ・コロナ禍でのボランティア活動についてのアンケートの結果や、コロナ禍で工夫して活動しているグループの情報を掲載したニュースを発行し、登録グループへ送付した。

コロナ禍でのボランティア活動状況アンケート報告

【調査期間】3月10日～3月22日

【回答数】134件

4月以降活動されていますか？

- 活動中 74件 (55%)
- 活動していない 20件 (15%)
- 活動再開を希望している 40件 (30%)

4月から活動している理由は？

- 下のおもてなし 41件 (31%)
- おしゃべり 17件 (13%)
- お茶の会 19件 (14%)
- おしゃべりとお茶の会 53件 (40%)

2.活動を再開した時期

- 10月から再開 11件 (8%)
- 11月から再開 10件 (8%)
- 12月から再開 16件 (12%)
- 1月から再開 29件 (22%)
- 2月から再開 26件 (20%)
- 3月から再開 25件 (19%)

3.活動再開の理由

- おしゃべりとお茶の会 24件 (18%)
- おしゃべり 12件 (9%)
- お茶の会 12件 (9%)
- おしゃべりとお茶の会 62件 (46%)

4.休会の理由は？

- おしゃべりとお茶の会 24件 (18%)
- おしゃべり 12件 (9%)
- お茶の会 12件 (9%)
- おしゃべりとお茶の会 62件 (46%)

5.ボランティアセンターに関すること

- ZOOM等を使い始める 47件 (35%)
- Zoom等を使い始める 47件 (35%)
- Zoom等を使い始める 47件 (35%)

★助成金のお知らせ～ 公益社団法人 大津市社会福祉協議会 ～ ★

「巻戻金を活かすボランティア活動助成事業」

1.グループ 10名以上、1年以上常時活動の導入に助成されます

2.活動期間 前年9月1日(金)～令和5年9月30日(金)

3.活動費 5万円以内(令和5年度分)を上限とし、令和5年度分は令和5年9月30日(金)まで申請してください。

4.申請書は、公益社団法人 大津市社会福祉協議会 事務局(電話)077-526-3336(受付)までお申し込みください。

5.申請期間は令和5年3月14日(金)までです。

6.申請書は、公益社団法人 大津市社会福祉協議会 事務局(電話)077-526-3336(受付)までお申し込みください。

★コロナ禍でも活動したい！～こんな工夫はいいの？～★

大きな部屋で活動して 総学習・おしゃべり大作!! 天恵のいい日にお外で

メールやLINE、ZOOMにチャレンジしていませんか？

★ 令和3年度にZOOMが使えるようになる研修会(仮)を開催します！

★大津市ボランティアセンターのコロナ対策について★

① 参加者名簿への記入・検温・消毒・手洗い・マスクの着用をお願いします。

② 活動室の利用や備品等の実施については、混雑のステージによって、判断しています。

★ 大津市ボランティアセンター事務局のお知らせ

4月からこれまでどのように活動できますか？... 情報を再開したいな！

【発行】
公益社団法人 大津市社会福祉協議会・大津市ボランティアセンター
〒520-0947 大津市津大津4-1-1 徳田郡津大津5層
TEL: 077-526-3336 FAX: 077-521-8287 E-Mail: volanteer@tsu-shakus.or.jp

コロナなんかには負けないぞ！

ボランティア活動が生活がいっぱいになっていることを実感する毎日。毎日の活動が一日も早く再開できるといいな！

コロナによる影響で、子どもたちの学び、習熟機会による伸びが滞っているのが気になります。

活動の再開の運びが楽しみです。コロナの被害を減らして、みんなが元気に活動できるようにしたいです。

自分たちのボランティアグループのみんなが、アンケートに答えてくれたこと、メッセージの一端をご紹介します。

入ってあんしん！ ボランティア活動再開

令和3年度(2021年度)のボランティア活動再開・ボランティア活動再開・電話サービス開始等、加入申請書を提出しました。

コロナ対策として、郵送でのお申し込みをお勧めしています。

登録グループ以外の方法、加入用紙を電話にてお問い合わせください。

とっても有意義なぞうがー

令和3年3月に開催している登録グループ交流会は、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、開催を取りやめられています。

活動再開の運びが楽しみです。センター職員一同の協力とご協力をお願いします。

今年度は、ふれあいサロン実施グループと合同で地域別に交流会を開催するべく企画・検討していたが、新型コロナウイルス感染症対策により中止となった。

Zoomを使って、各地のボランティアと交流～ 福原ボランティアグループの会～

Zoomを使って、各地のボランティアと交流～ 福原ボランティアグループの会～

Zoomを使って、各地のボランティアと交流～ 福原ボランティアグループの会～

3) 登録グループの交流会 開催中止

- ・今年度は、ふれあいサロン実施グループと合同で地域別に交流会を開催するべく企画・検討していたが、新型コロナウイルス感染症対策により中止となった。

67

感染症予防のため、行事を中止されることが多く、行事用保険の返戻手続きに追われた。

(4) ボランティア保険加入窓口の設置

①ボランティア関係保険加入手続き

- ・基本プラン 5,666人 (令和元年 6,265人 前年度比 90%)
- ・天災プラン 370人 (" 373人 " 99.2%)
- ・ボランティア行事保険 993件 (" 1,154件 " 86%)
- ・福祉サービス総合補償 52件 (" 53件 " 98%)
- ・送迎サービス補償 2件 (" 0件 " 200%)

②事故報告件数 20件 (" 26件 " 77%)

- 内訳
- ・ボランティア活動保険 10件
 - ・ボランティア行事用保険 2件
 - ・福祉サービス総合補償 8件

(5) 民間団体助成金推進事業

ボランティアグループや市民活動団体が、新たな事業の推進や展開が図れるよう、民間団体による助成事業の広報や助成に伴う相談支援を行った。

また、社会福祉協議会の推薦が必要な助成事業で、本会が推薦した助成事業と交付決定状況は下記のとおり。

助成金の内訳	推薦件数	決定件数
第35回「老後を豊かにするボランティア活動資金」助成 みずほ教育福祉財団	3	1
2019年度公益財団法人大阪ガスグループ「高齢者福祉助成」	8	8
生命保険協会2020年度「元気シニア応援団体に対する助成活動」	2	2
令和3年キリン・地域の力応援事業	1	1
2021年度しがぎん福祉基金	2	0
合計	16	12

(6) ボランティアグループ、NPO、市民活動センターとの連携

ボランティアの調整をしている機関との情報共有や各機関が主催する事業に参画してボランティアセンターのPRを行うと共に、相互に広報などに協力するなどボランティア活動や市民活動を推進するため連携した。

①滋賀県レイカディア大学「地域活動体験学習」に関わる支援

- ・地域活動体験学習説明会 3回開催 53名参加
- 参加者のうちボランティア活動の受け入れ先が決まっていない受講生に対し、受け入れ先を紹介した。

②21文字メッセージプロジェクト実行委員会への参加

- ・委員会へ10回参加
- ・コロナで外出自粛の影響か5,350作品が寄せられた(前年度4,017作品)

③おおつ障害者週間「ほかほかまつり」実行委員会への参加

- ・例年開催しているまつり行事は、感染症予防のため中止となった。
- ・代替事業として、3月6日にオンライン研修「障害者差別のないおおつを目指して」を大津市障害者自立支援協議会等と共催して開催した。

④労福協まつりでの市社協・共同募金事業啓発

- ・感染症予防のため中止となった。

(7) 大津市ボランティアセンター運営委員会の開催

多角的な視点から市内のボランティア活動を取り巻く現状を把握し、ボランティアセンターの適切な運営に活かしていくため、大津市ボランティアセンター運営委員会を開催した。

1) 委員名簿 任期：令和元年11月～令和3年11月（敬称略）

No.	選出区分	氏名	所属団体等
1	学識経験者	筒井 のり子	龍谷大学
2	学区社会福祉協議会役員	亀井 須美枝	藤尾学区社会福祉協議会会長
3	学区社会福祉協議会役員	山口 寿津子	堅田学区社会福祉協議会会長
4	ボランティア市民活動団体関係者	松井 佐彦	おやじのたまり場代表
5	ボランティア市民活動団体関係者	金山 幸子	おおつ傾聴ボランティアダンボの会代表
6	福祉施設関係者	山本 和彦	高齢者総合福祉施設 桐生園
7	企業・団体関係者	元田 栄三	特定非営利活動法人大津曳山連盟理事長
8	教育関係者	浅野 和成	大津市教育委員会 学校教育課
9	学生	杉山 わかな	龍谷大学ボランティア・NPO活動センター代表
10	労働者福祉団体関係者	内海 善夫	大津地区労働者福祉協議会
11	関係行政機関	横山 輝弘	大津市福祉子ども部 福祉政策課

2) 役員会の開催

委員会を開催するにあたり、当日の議題などを協議するため役員会を開催した。

- ①令和2年6月16日（火）10：00～12：00
- ②令和2年11月6日（金）10：00～12：00
- ③令和3年2月16日（木）14：00～15：30



運営委員会役員会の様子

3) 委員会の開催

第1回 日程 令和2年6月26日（火）14：00～16：00

会場 明日都浜大津5階 中会議室

- 内容 報告事項 ・令和2年度事業計画
 ・「コロナなんかには負けないゾウ」について
 協議事項 ・ひろげようボランティア助成金の審査について
 ・テーマトーク「新しい生活様式とボランティア活動」

第2回 日程 令和2年11月17日（火）13：00-14：30

会場 明日都浜大津4階 ホール

- 内容 報告事項 ・ひろげようボランティア助成金中間報告
 ・ボランティア関係講座等について
 ・災害ボランティアセンター関係
 ・特例緊急小口資金等の現状報告について
 テーマトーク「コロナ時代のボランティア活動やボランティアセンターのあり方について」

第3回 日程 令和3年3月24日（水）10：00～11：30

会場 明日都浜大津5階 中会議室

- 内容 報告事項 ・ひろげようボランティア助成金報告
 ・令和2年度事業報告
 協議事項 ・令和3年度大津市ボランティアセンター事業計画(案)について

(8) ボランティア基金運営事業

大津市における地域福祉の向上を目指して福祉活動にかかわるボランティアグループの自主的で継続的な活動を育成・助長するため、安定した財源を確保することを目的として、「大津市ボランティア基金」を設置している。

ボランティア基金は「ボランティアセンター運営委員会」において管理運営しており、基金の運用益を活用して、ボランティア活動の発展・ボランティアグループの育成につなげている。

令和2年度は昨年度に引き続き、新たなボランティア活動者の参加を促進するため、ボランティアグループや社会福祉施設などが行う、地域住民やボランティア活動に興味関心のある方などを対象にした講座・研修・イベント等にかかる費用を助成する「ひろげようボランティア助成金」を実施した。

1) ボランティア基金額

令和2年度末現在 130,000,000円

2) ボランティア活動充実積立金

令和2年度末現在 13,987,648円

3) ボランティア基金活用事業

①ひろげようボランティア助成金

ボランティア活動参加者を増やすための事業について、1グループ上限50,000円を助成する。

申請グループ 5グループ

助成決定グループ 5グループ

コロナで開催が危ぶまれるなか、対策をして事業を実施。今後の事業実施に繋がる参加者を得ることができたとの報告があった。

	グループ名	事業名	助成額(円)
1	NPO 法人フェイスフル・フレンドソサエティ	琵琶湖岸清掃 (感染症予防対策のため事業変更)	24,647
2	新大宮川を美しくする会	大宮川学連続講座 第1回～第9回	50,000
3	音と花と人と	花鈴人サマーフェスタ	50,000
4	比叡平3丁目ノラネコヘラソカイ	3丁目ノラネコヘラソカイ (猫の保護活動紹介)	50,000
	南庄町ふれあいサロン 健康づくりサークル	シニア筋力アップ教室	20,000
	合 計		194,647

②ボランティアコーディネーション力検定3級検定受講料一部助成

対 象：学区社協役員、施設職員、学校教員、登録ボランティアグループのうちコーディネーター検定を受験して合格した方

助成額：17,600円 (2人×@8,800円/人)

ボランティアセンター登録グループから2名受験し合格された。

(9) 職員のスキルアップ・他市町との連携

市町社協ボランティアコーディネーター連絡会議 (県社協主催)

日 時：令和3年2月10日(水)13:30～15:30

会 場：県立長寿社会福祉センター 第3・4研修室

参加者：県内ボランティア担当者(大津市社協より2名)

内 容：ボランティア保険の説明

各社協の取り組み紹介 (彦根市社協・長浜市社協)

情報交換会 (グループワーク)

(2) 新しい参加者を巻き込んでいく取り組みの推進

① 退職シニアの参加促進を図ります		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
ボランティアなどの地域福祉活動に興味を持ちながら実践に結びついていない市民を掘り起し、サラリーマンや団塊・シニア世代が、地域福祉の担い手として活躍できるよう、参加機会の拡充や継続的な支援を充実します。	退職シニア男性に向け社会参加のきっかけづくりに『おやじの連絡帳 vol.1.5』を発行した。平成30年度、令和元年度『おやじ塾』受講生を対象に社会参加を継続できるよう『おやじ塾同窓会』を開催した。	サラリーマンや団塊・シニア世代に社会参加の継続を促し地域福祉の担い手として活躍の場をつくる。
② 若者の参加促進を図ります		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
中高生や大学生などにボランティア活動や地域活動に参加する機会を提供するとともに、地域への愛着を醸成するなど、まちづくりの活性化を目指します。	市内の大学生グループが「赤い羽根共同募金チャレンジ事業」に応募して、子ども支援の寺子屋活動に関するボランティア参加促進を促進するパンフレットを作成した。資金や作成内容、地域との連携、配布について支援を行った。寺子屋プロジェクトの事業を推進することで、地域の子どもたちを地域で見守り育成する体制づくりに取り組んだ。	作成された寺子屋冊子を活用し、また福祉施設とも協働しながら市内6大学・短期大学、高校等との連携を進める。

主な事業

・ボランティア講座・研修事業

(1) 出合いのボランティアカフェの開催

ボランティア活動を始めてみたい方を対象に、毎回テーマを設定しボランティアグループの“活動紹介”と“体験”をメニューに組み入れつつ、参加者どうしがカフェ形式で情報交換しあえる内容で開催した。

会員減少で解散も視野にあったグループがメンバーを増やし、活性化するなど良い影響を与えている。

1) 集まれ！にゃんこボランティア

- ・対 象：ボランティアを始めたい方・活動をしている方で猫に関するボランティア活動に興味・関心のある方 等
- ・日 程：令和2年5月21日（火）14：00～15：30
- ・場 所：明日都浜大津4階ふれあいプラザホール
- ・内 容：猫に関するボランティア活動グループの“活動紹介”とカフェ形式による情報交換・相談
- ・ゲストスピーカー 特定非営利活動法人 LOVE&Peace Pray
ノラネコヘラソカイ（ひろげようボランティア助成団体）
大津市動物愛護センター職員
- ・成 果：グループワークが感染症対策できなかったのが残念だったが、市内の猫に関わるボランティアどうしが集まり情報交換ができた。次年度も、緩やかな形で参加できるミーティングを実施し、情報交換を通じて連携が深まるような機会を設けたい。



あつまれ！にゃんこボランティア



LOVE&PEACE Pray



ノラネコヘラソカイ

2) 傾聴ボランティアをテーマにしたカフェ

- ・傾聴ボランティアダンボの会にゲストスピーカーを依頼し企画したが、感染症予防対策上、中止とした。

(2) その他

- ・退職シニアの地域参加、地域福祉担い手養成、福祉のまちづくり講座、学区社協地域福祉活動計画（手引き）作成など再掲。

(3) 地域で活動している人や団体の新しいつながりづくり

① 学区社協地域福祉活動計画作成を通してつながりを広げます		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
学区社協や地域で活動するさまざまな団体、福祉関係者などの参加により、地域の問題解決や活動のさらなる発展を図るため、全学区での地域福祉活動計画の策定を目指します。また、策定過程で学区内の課題を共有し、地域福祉活動への参加の拡大を目指します。	地域福祉活動計画（学区社協の手引き）の作成するにあたり、地域の各団体や住民との懇談会を行い、学区社協が実施する事業の意義を確認し、学区内の課題と課題を達成するための活動に関する意見交換ができた。	学区地域福祉活動計画（学区社協の手引き）作成を進め、学区内の各団体の連携や住民の参画を求める。
② 社会福祉施設・団体・事業所との連携を図ります		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
地域福祉の実践に取り組む社協には、新たな福祉ニーズに積極的に取り組むことが期待されています。特に、支援を必要としている人と支援者、また、団体と団体等を調整し、つなぐ役割が求められていることを重視し、社会福祉施設・団体・事業所との連携を推進します。	市内 145 の福祉施設が連絡会に加入し、分野を超えたつながりづくりと地域と共に連携した活動の推進に取り組んだ。しかし、コロナ禍により、感染症防止の観点から積極的な活動が展開できなかった。そのような中でも、オンラインを活用した会議を開催したり、コロナ禍での対応を共有したりと、つながりが切れない工夫を行った。	コロナの収束が見えない中、感染防止対策に追われる福祉施設とどのような協働の活動を推進するか検討と工夫が必要。

主な事業

・ 歳末たすけあい募金配分事業

市内社会福祉施設配分状況

施設数 79 施設 (令和元年度 80 施設)
 金額 1,240,000 円 (" 1,260,000 円)

※令和 2 年度は、施設へのお見舞金にあわせて歳末絵手紙カレンダーを作成し、各施設へ配付した。

・ HANA-WA プロジェクトへの協力

PCR (=ペットボトルキャップリサイクル) 作業所連絡会と淡海フィランソロピーネットが協力して行っている、ペットボトルキャップから再生されたプランターに花を植えてリースし環境美化を図る「HANA-WAプロジェクト」に協力している。

プランター (7 台) の前に大津市社協を啓発する表示用看板を設置することで、啓発にも活用している。

(4) 地域福祉を協働で進める取り組みの推進

① 社会福祉法人との連携と支援に取り組みます

概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
支援が必要な高齢者や障害のある人、子育て家庭等へ、適切な支援策を見出すため、市内社会福祉法人とのネットワークを構築します。また、地域支援と専門支援を融合した多職種間による地域福祉推進力の拡大を図ることにより、新しい日常生活支援のあり方を検討します。	施設連絡会による地域貢献の一環として、支援を必要とする子どもたちの夕方から夜の居場所づくり、ひとり暮らし高齢者のかぎ預かり、ひきこもり等の方の自立支援を目指すお仕事体験の受入れを実施。 また新たに、地域公共交通機関の路線が廃止・減便する中で移動支援について地域とともに検討を進めた。また、身寄りのないひとり暮らし高齢者に対する、入院や死後事務についての安心事業について参画を打診。	市域全体で事業を実施するよりも、地域課題に合わせて地域とともに協働した活動を展開する必要がある。そのためにも地域と福祉施設の顔の見える関係やつながりづくりを意識的に実施。

② 大学との連携を図ります

概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
大学との連携・協働の機会を充実するため、学生や市民が活動情報の取得や相談等を気軽にできるよう、大学との連携の強化を図ります。	「赤い羽根共同募金チャレンジ事業」を通して、学区社協の行う子どもの学習支援事業の紹介冊子を作成いただいた。その過程で、学生が学区社協に聞き取りするために、地域担当職員が地域と学生の調整を行った。	コロナ禍で学生自身が、地域福祉活動どころか学校へも行くことが困難であり、アルバイト等自粛で困窮する学生もある。学生の生活を守ることも社会的孤立の脱却と防止の視点が必要である。

③ 企業などとの連携による取り組みを進めます		
概要	今年度の取り組み	今後の課題・方向性 等
団体や関係施設が、企業の社会貢献活動の展開や地域福祉活動に参画できるよう、民間活力と連動した地域福祉の推進を図ります。	災害ボランティアセンターの事前登録を企業に働きかけ、会社全体で災害時の応援体制を得るとともに、募金型自動販売機の設置により、寄付文化の醸成も行った。 商工会や企業に対し、市社協の活動を積極的にPRするとともに、地域課題を発信することで、金銭面・物資面での支援を得ることができた。	共同募金が減収する中で、積極的に企業への働きかけを行い、地域福祉への関心と人的、金銭的、物的支援を求める必要がある。

主な事業

・ 大津市社会福祉協議会施設連絡会について

大津市社会福祉協議会施設連絡会では、①分野を超えた横断的なつながりづくり、②地域における公益的な取組及び地域と連携した取組の実施を目指し、保健福祉ブロックごとの活動を軸に設立以来進めてきました。

しかし令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の蔓延を受け、各福祉施設における感染症予防対策の徹底により利用者様や職員の命を守る行動が最優先すべきと判断し、施設連絡会の活動も自粛せざるをえず、ブロック連絡会や各事業についても前年度のような活動が行えませんでした。

そのような中でも、オンラインを活用したブロック連絡会を開催したり、コロナ禍での各施設の対応策や苦勞を共有したり、地域課題に対して具体的な地域貢献活動を検討したりと、新たなつながりを大切に活動も生まれました。

◎施設連絡会役員

会 長：前阪良憲氏（特別養護老人ホーム真盛園園長）

副会長：白杉滋朗氏（NPO法人おおつ「障害者の生活と労働」 協議会 事務局長）

副会長：西山英男氏（わかば保育園園長）

幹 事：杉立隆一氏（母と子の家しらゆり施設長）

幹 事：日比晴久氏（特別養護老人ホームカーサ月の輪施設長）

会員施設状況（R3.3.31 現在）

分野別

分野	施設数	
	(R2)	(R1)
高齢	49	45
障がい	48	48
児童	8	7
保育	36	36
その他	4	4
合 計	145	140

ブロック別

ブロック	施設数	
	(R2)	(R1)
志賀	11	11
北部	17	15
比叡	30	29
中部	21	20
中南部	24	22
南部	14	14
東部	28	29
合 計	145	140

1) 総会の開催

※令和2年4月18日(土)に開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、文書送付に代えた。

議案 令和元年度事業報告(案)について
令和2年度事業計画(案)について

2) 幹事会の開催

回数	日時	内容
1	9月28日(月) 13:30~	・会員状況について ・今年度の事業状況について ・コロナ禍における各分野の状況、対応策について ・今後の事業について
2	2月18日(木) 13:30~	・会員状況について ・令和3年度総会について ・令和3年度事業について ・各分野からの情報提供

3) 保健福祉ブロックごとの連絡会の開催

ブロック	開催回数
志賀	1
北部	0
比叡	1
中部	0
中南部	1
南部	0
東部	0
合計	3



※比叡ブロックについては、オンラインで会議を開催。

4) 啓発事業

福祉施設を対象に大津市社協施設連絡会加入の促進(新規7施設)

5) 施設連絡会ネットワークシステムの活用

施設連絡会会員施設同士の情報共有や情報発信等をスムーズに行うため、平成30年度に構築したシステムを活用した。(R3.3.1現在)

項目	件数
お知らせ	16
ニュース	1
会議案内	5
あげる(寄付)	6
合計	28

コロナ禍で会議開催ができず、「会議案内」が減少しました。

6) ニュースレターの発行(1回 R2年10月発行)

- ・コロナ禍における福祉施設のいま…(各分野の取組み)
- ・施設連絡会ネットワークシステムの活用について
- ・施設でのボランティア担当者対象のボランティアコーディネーション力検定3級の案内

7) 生活困窮者やひきこもりの若者の社会参加と就労支援『お仕事体験会』の実施

「お仕事体験」は年々協力施設が増えてきているが、今年度は新型コロナウイルス感染症防止対策により、施設において外部からのボランティア等の受入れのむずかしさがあった

た。また、世間の自粛に合わせるかのように、ひきこもり等の若者の相談も少なく、お仕事体験の実施も3回のみであった。(R1年度15回)

- 【実施回数】 3回
- 【受入れ施設数】 3施設
- 【参加者総数】 17名
- 【参加者実人数】 16名
- 【登録施設】 24施設

	受入れ施設	体験例	参加者
1	長等の里	・洗濯・乾燥機をかけ、洗濯物をたたみ ・洗濯物の仕分け、運搬	1
2	大津市社会福祉協議会	赤い羽根共同募金資材準備 ・配布資材の袋詰め ・チラシの数え作業 など	15
3	長等ほたるの家	・箱折り	1
合計	3施設 3回		17名



8) 地域における支援を必要とする子どもたちの居場所を施設につくる『フリースペース』の実施

支援を必要とする子どもの夕方から夜の居場所づくり事業「フリースペース」については4施設で登録いただいているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点で2施設は1年間受入れを休止された。

実施2施設についても、緊急事態宣言や警戒ステージを受けて一部休止をされたり、参加者を分けて開催するなどの工夫をしていただいた。食の確保が不安定な家庭に向けては、休止中も配食を通して、状況確認等も実施した。

学生ボランティアの協力により、子どもと年齢の近い関係づくりも進めていますが、コロナ禍により大学としての参加が自粛される時期もあり、施設にとっても子どもにとっても学生にとっても活動に制限があった。

【実施体制】 管理者 : 施設職員

スタッフ : 施設職員、施設連絡会会員、地域住民、
大学生ボランティア ほか

【連携機関】 学校、大津市子ども家庭相談室、NPO、県社協、市社協

実施施設	開催回数	子ども総数	子ども実人数	スタッフ総数
カーサ月の輪	24	49	4	45
時の奏	37	57	2	78

※2施設はコロナ感染防止の観点で休止。



9) 地域のひとり暮らし高齢者等のかぎを施設で預かることで緊急時の安心を確保する『ずっとあんしんかぎ預かり事業』の推進

令和2年度は、新たに3名の方と契約を行った。ご本人からもご家族からも「かぎを預けることで、安心できる」と喜びの声や、民生委員児童委員からも「身近な地域の福祉施設で預かってもらえるとうれしい」との声が寄せられている。

また、1名解約（死亡）により、ご家族へのかぎの返却も新たに経験しました。

地域からは、見守りの一環として「かぎ預かり事業」を推進していきたいと期待の声もある。

◎実施福祉施設

1	2	3	4	5	6
真野 しょうぶ苑	福寿荘	夕照 たまのうら	長等の里	やすらぎの郷	桐生園

10) 地域と連携した取組みの検討

地域（学区社協）と福祉施設が地域課題と施設課題を共有し、各制度の勉強会と懇談会を通して顔の見える関係構築を行った。

その中で、地域では路線バスの廃線が相次ぎ、また高齢化による運転免許の返納、地域の商店の撤退等により、買い物を含めた「移動」に課題があり、地域から転居していく世帯も出てきている。

そこで、「移動」に対する地域課題に対して、施設の協力の可能性について検討を行った。

また、地域と福祉施設の懇談会をきっかけに、学区社協の行う冬休みの宿題支援「寺子屋プロジェクト」に施設職員が派遣され、準備から子どもの支援、後片付けまでお手伝いいただき、地域から大変喜ばれた。



11) その他ブロック連絡会ごとの事業

- ・災害時等の施設間連携リスト（災害時連絡表）の更新
- ・施設保有の災害備蓄品・模擬備品の貸出共有リストの作成
- ・学区社協の地域福祉講座の講師として協力
- ・「コロナ座談会」として、各施設のコロナ禍の状況共有 等

・ 大津市役所福祉子ども部・健康保険部幹部向け社協活動のプレゼンテーション

日 時：令和2年10月21日（水）13時30分～15時30分

場 所：ふれあいプラザ 4階視聴覚室

参加者：福祉子ども部（部長、次長、課長）

健康保険部（部長、次長、課長2名、課長補佐）

大津市社協職員

内 容：大津市社協の取り組み報告

- ① 生活困窮者支援、相談事業
- ② 地域支援事業
- ③ 権利擁護支援
- ④ ボランティア支援
- ⑤ 子育て支援、学習支援
- ⑥ ひきこもり支援
- ⑦ 地域での見守り活動

